Pioneer

AV デジタル サラウンド・アンプ

VSA-D6TX

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

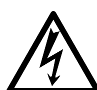


警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

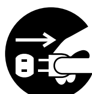
絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



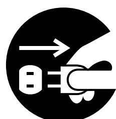
⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

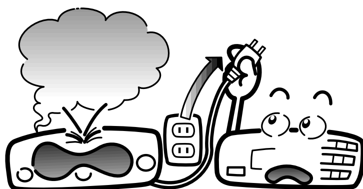
⚠警告

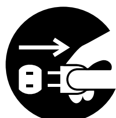
〔異常時の処置〕



プラグを抜け

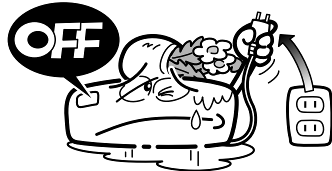
● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

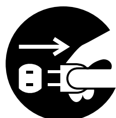




プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。





プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



ホームシアターを簡単に楽しむ

「ホームシアターを簡単に楽しむ」は3ページから6ページまでの簡易ガイドです。目次は8、9ページになります。

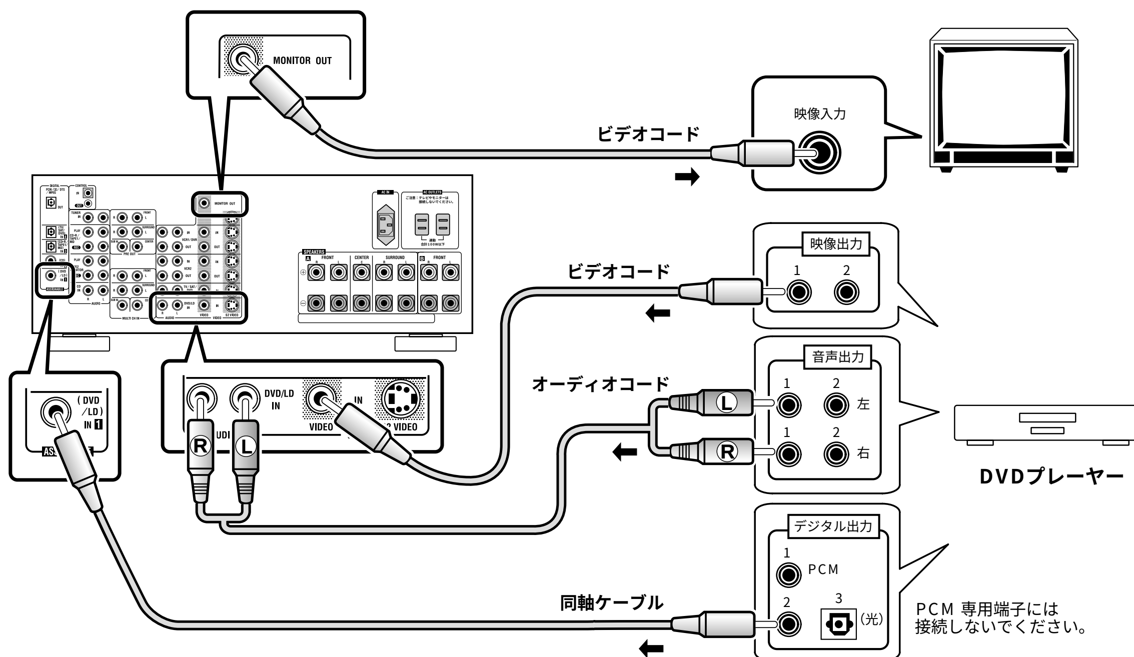
ここでは 1 から 6 までのステップで、ホームシアターを簡単に楽しむための手順を説明します。
よりよいサラウンドを楽しむためには最適なサラウンドの設定を行ってください。

1 DVDプレーヤーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

ドルビーデジタルやDTSサウンドを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。
接続は「同軸デジタル端子で接続する場合」か「光デジタル端子で接続する場合」（次ページ）のどちらか一方の接続を行ってください。両方の接続を行う必要はありません。

同軸デジタル端子で接続する場合

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の同軸デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、ビデオコード2本、オーディオコード（L/R用）1組、同軸ケーブル（デジタル音声用）1本をご用意ください。



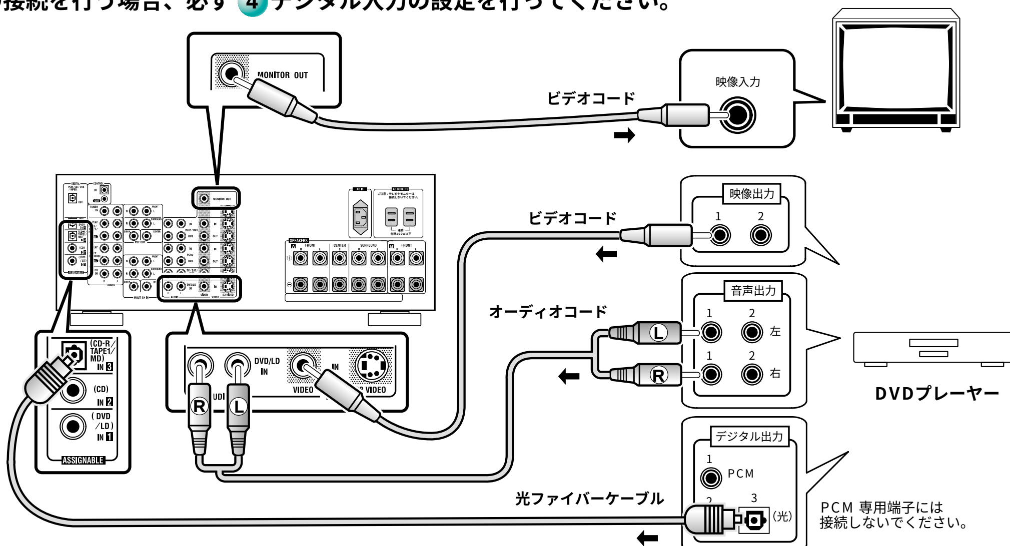
☞「光デジタル端子で接続する場合」は次のページをご覧ください。

1 ホームシアターを簡単に楽しむ

ホームシアターを簡単に楽しむ

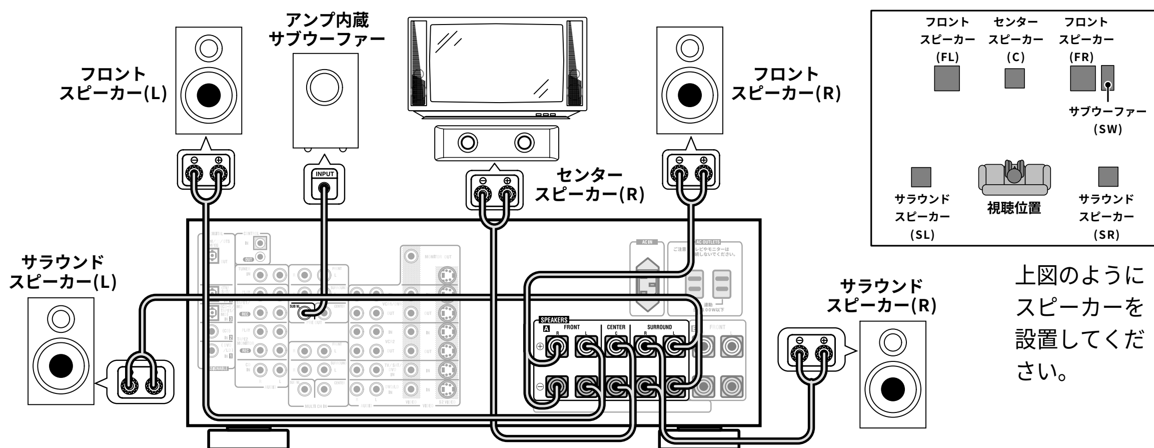
光デジタル端子で接続する場合

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の光デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、ビデオコード2本、オーディオコード(L/R用)1組、光ファイバーケーブル1本をご用意ください。
この接続を行う場合、必ず 4 デジタル入力の設定を行ってください。



2 スピーカーとの接続 (機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。)

スピーカー5本(フロントL/R、センター、サラウンドL/R)と、サブウーファーを接続してください。
(スピーカーとサブウーファーは必ずしもすべてを接続する必要はありませんが、本機で最適なサラウンドを楽しむには、スピーカー5本とサブウーファーを接続することをおすすめします。)

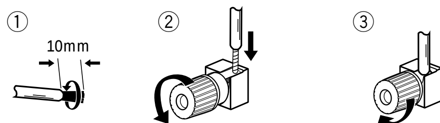


上図のようにスピーカーを設置してください。



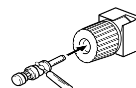
- センタースピーカーを接続しない場合は、映画のセリフが出ない場合がありますので「スピーカーの設定」(28ページ)を参照して、センタースピーカー無しの設定を必ず行ってください。
- サブウーファーには別の接続方法もあります。詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

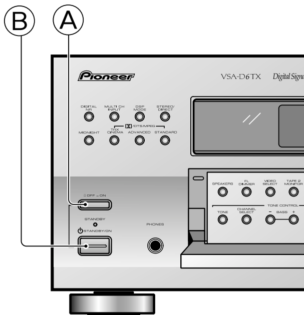


① 線をネジる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)



3 設定の準備



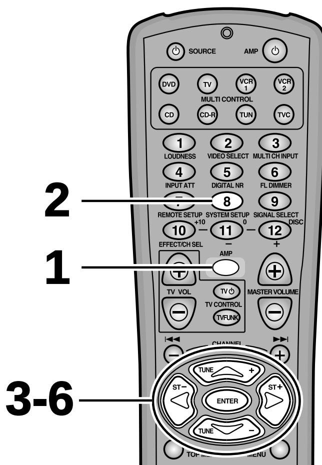
1 **リモコンに電池を入れる（12ページ）。**

2 **本体の電源コードをつないで、電源を入れる。**
Ⓐボタンを押してから Ⓑボタンを押して、電源をONにします。

3 **テレビの電源を入れ、テレビのファンクションを本機の出力映像が表示されるように設定する。**

4 デジタル入力の設定

「1 DVDプレーヤーとの接続」を光ファイバーケーブルで接続した場合にのみこの設定が必要になります。同軸ケーブルで接続した場合は、この設定は必要ありませんので「5 DVDのサラウンド再生」に進んでください。工場出荷時、IN3（光デジタル入力）はCDに設定されています。以下の手順で、IN3（CD-R/TAPE1/MD）をDVD/LDに変更します。



以下はリモコンの操作方法です。

1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 8 SYSTEM SETUP **SYSTEM SETUPにする。**
ディスプレイが下記の状態になります。

`Assign Set ---`

再度SYSTEM SETUPボタンを押すと、「Assign Set」が消え、もとの画面表示に戻ります。

3 ENTER **Assign Set（入力の設定）にする。**
ディスプレイが下記の状態になります。

`Digital In ---`

4 ENTER **Digital In（デジタル入力の設定）にする。**
ディスプレイが下記の状態になります。

`Digi-1:DVD/LD---`

5 TUNE **「Digi-3: CD-R」を選択する。**
ディスプレイを下記の状態にします。

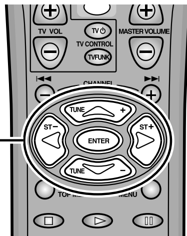
`Digi-3: CD-R ---`

6 ENTER **「Digi-3: CD-R」の入力切換にする。**
ディスプレイの「CD-R」が点滅します。

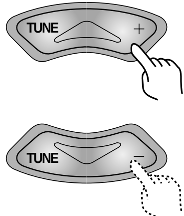
`Digi-3: CD-R ---`

<次ページの手順7へお進みください>

7-14



7

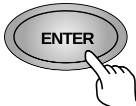


「DVD/LD」を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

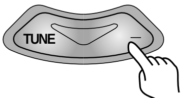
Digi-3:DVD/LD---

8



デジタル入力3の設定をCD-RからDVD/LDに切り換える。

9

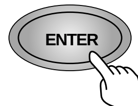


「Dig-In End」を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

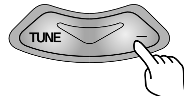
Dig-In End ---

10



Digital In(デジタル入力の設定)を終了する。

11



「Assign End」を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

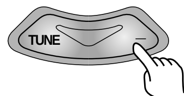
Assign End ---

12



Assign Set(入力の設定)を終了する。

13

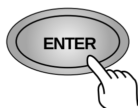


「Setup End」を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

Setup End ---

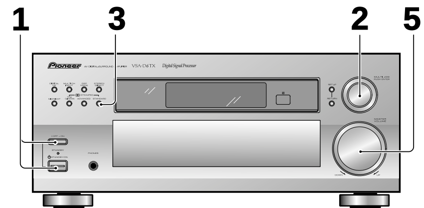
14



SYSTEM SETUPを終了する。

ディスプレイはもとの表示に戻ります。

5 DVDのサラウンド再生



1. **本機とDVDプレーヤー、テレビの電源をONにします。**
2. **INPUT SELECTORを回して、「DVD/LD」を選びます。**
3. **STANDARDボタンを押して、「STANDARD」を選びます。**

   SIGNAL SELECT表示がDIGITALになっていることを確認してください。このとき、表示がANALOGになっていたらSIGNAL SELECTボタンを押してAUTOに切り換えます。
4. **DVDを再生します。**
5. **音量を調整します。**

   MASTER VOLUMEをゆっくり回すと、緩やかに音量が大きくなるように設計されています。そのため、少量回しただけでは音が出ていないと感じられることがあります。

6 よりよいサラウンドを楽しむために

1. **最適なサラウンドの設定が必要です**

   取扱説明書の「4. セットアップ」(25～39ページ)を参照して、お手持ちのシステムや環境にあわせて設定してください。
2. **お好みのサウンドモードを選択します**

   取扱説明書の「5. 基本操作」(40～52ページ)を参照して、お好みのサウンドモードを選択してください。

特　長

マルチチャンネルステレオフォニック思想

全チャンネルに対し質の高いアンプ回路を採用。**“ オーディオの基本となる技術を忠実に仕上げ、ＤＶＤ など先進の大容量デジタルメディアにおさめられたソースの情報量をありのままに再生することにより、理想とする音楽/　音場を再現する ”**というマルチチャンネルステレオフォニック思想にもとづき数々の高音質回路、パーツを搭載しました。

ダイレクトエナジーMOS FET回路を全5チャンネルに搭載。ピュアオーディオ（2ch）再生時でもマルチチャンネルサラウンド（5.1ch）再生時でも明瞭な音像感、音場感、重量感豊かな低域再生を実現しています。信号経路を最短かつシンプルにした構造の**ダイレクトコンストラクション**も音質を向上させています。

高剛性シャーシ、トランス下面を補強するトランスフレーム、トランスとアンプ部を隔離するトランスアイソレーターの採用により、筐体剛性のアップに加え、不要振動の低減が図られています。

ユニバーサルプレーヤー対応

独立6チャンネルのマルチチャンネル入力端子を搭載。DVD-Audioは高SN比でハイクオリティーに再生することができます。

デジタルソース「THX CINEMA」、次世代デジタルソース「MPEG-2 AAC」対応

ドルビーデジタル、ドルビーサラウンド、ＤＴＳ 対応の映画のサウンドトラックを、映画館と同様の臨場感、迫力でお楽しみいただける「THX　CINEMA」モードに対応。もちろん、ドルビーデジタル／ドルビープロロジックや、映画館で採用されているＤＴＳ（デジタルシアターシステム）のデコーダーも搭載しているので、ご家庭で、映画館やコンサートホールの迫力を手軽にお楽しみいただけます。次世代デジタル放送の音声フォーマット「MPEG-2 AAC」のデコーダーも搭載しました。

各種マルチチャンネルフィーチャー

- ADVANCED THEATERモード
  ソフトの内容やスピーカーの数に合わせて最適なリスニングモードが選択できます。
- DSPサラウンドモード
  あらゆる映画や音楽ソフトを、6タイプの最適なシミュレーションモードで楽しむことができます。
- ミッドナイトリスニングモード
  小音量でも「迫力」や「響き」を補正し、大音量で聞いているときの臨場感を味わうことができます。
- デジタルノイズリダクションモード
  音声再生時のノイズを低減し、クリアな再生を実現します。
- トーンコントロールモード（全チャンネル）
  全てのチャンネルについて高音、低音がお好みで調整できます。

他機器操作が可能なマルチコントロールリモコン

他機器のプリセットコードおよび学習機能も搭載し、他社製品も操作することができます。

省エネルギー設計製品

本製品は、待機時消費電力を１Ｗに抑えた設計となっています。

目　次

1.　ホームシアターを簡単に楽しむ

2.　ご使用の前に

3.　接　続

4.　セットアップ

5.　本機の操作

目　次

6．他機器の操作

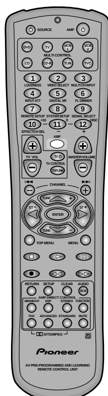
7．その他

8．各部の名称と働き

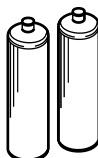
1
2
3
4
5
6
7
8

ご使用の前に

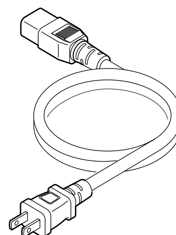
付属品を確認する



リモコン



単3形アルカリ乾電池（LR6）×2



電源コード

- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内

本書の使いかた

本書は、VSA-D6TXの操作に必要な各種セットアップと、操作方法について説明しています。

1． ホームシアターを簡単に楽しむ

DVDを簡単に楽しむための簡易ガイドです。（3～6ページ）

2． ご使用の前に

付属品の確認、設置の注意、リモコンに電池を入れるなど、使う前の準備について説明しています。（10～13ページ）

3． 接　続

本機に必要な機器を接続します。（14～24ページ）

4． セットアップ

「サラウンドモードの設定」（25～39ページ）でサラウンドシステムをセットアップしてください。

5． 本機の操作

本機と付属のリモコンの基本的な操作方法について説明します。（40～52ページ）

6． 他機器の操作

「他機器を操作するためのリモコン設定」（53～55ページ）で、付属のリモコンで他機器を操作可能にし、「他機器のリモコン操作」（59～62ページ）で他機器の操作について説明しています。

7． その他

ドルビーデジタルなど、サラウンドに関する説明、故障時の対処方法、本機の仕様、保証とアフターサービスについて記載しています。（66～73ページ）

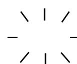
8． 各部の名称と働き

各ボタン、コントロール、インジケーター機能につい説明しています。（74～79ページ）

マークの意味



操作上の注意点、アドバイスなど補足的な説明。



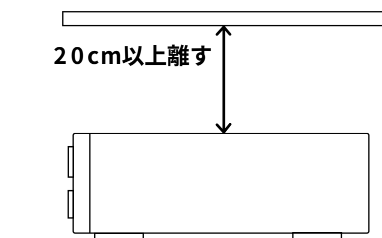
ボタン、ディスプレイ表示が点滅。



ENTERボタンを指で押す。

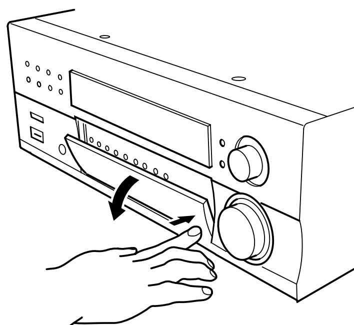
設置について

- 放熱のため本機の上には物などを置かないでください。
- ラック等に設置する場合は放熱のため、上部に20cm以上の空間をあけてください。



ドアパネルの開けかた

ドアパネルの下側を軽く押してください。



マスターボリュームと音量

本機はマスターボリュームに電子式ボリュームを使っているため、6 つのチャンネルを高精度にコントロールすることができます。
また、最小(−−− dB) ～ 0 dB ～ 最大(+12 dB)と広範囲の調節ができます。

再生するソフトや使用するスピーカーによって多少違いますが、表示と音量はおおよそ以下のようになります。

音量レベル表示

−−− dB　−60　−40　−20　0 dB　+12 dB

迫力ある音量で映画などを楽しむとき

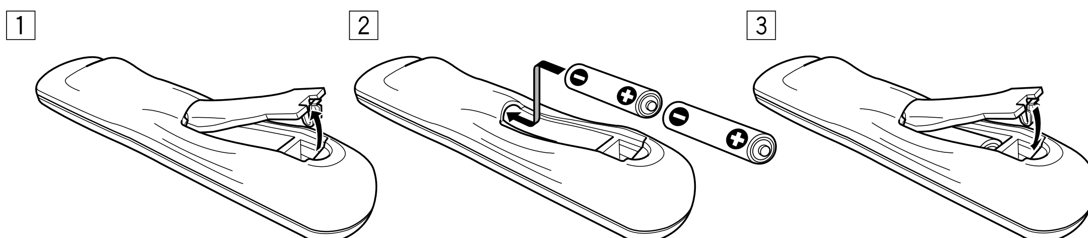
リラックスした雰囲気で音楽を聴くとき

小音量できくとき



リモコンの準備と予備知識

リモコンに電池を入れる





電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

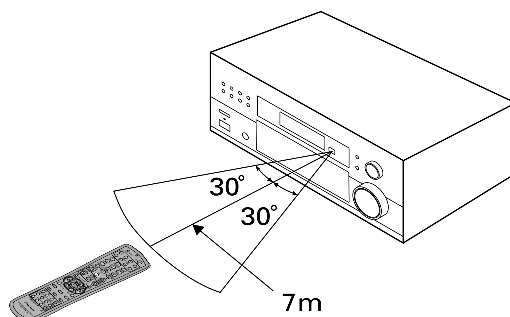
- 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。



- 電池を交換するときは、なるべく5 分以内に交換することをおすすめします。5 分以内に交換しないと、メーカーコードが解除される可能性があります。メーカーコードが解除されてしまった場合は、再度プリセットし直してください（5 3ページ）。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください （2 本とも新しい単3 形アルカリ乾電池をお使いください）。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン受光部に向けてください。

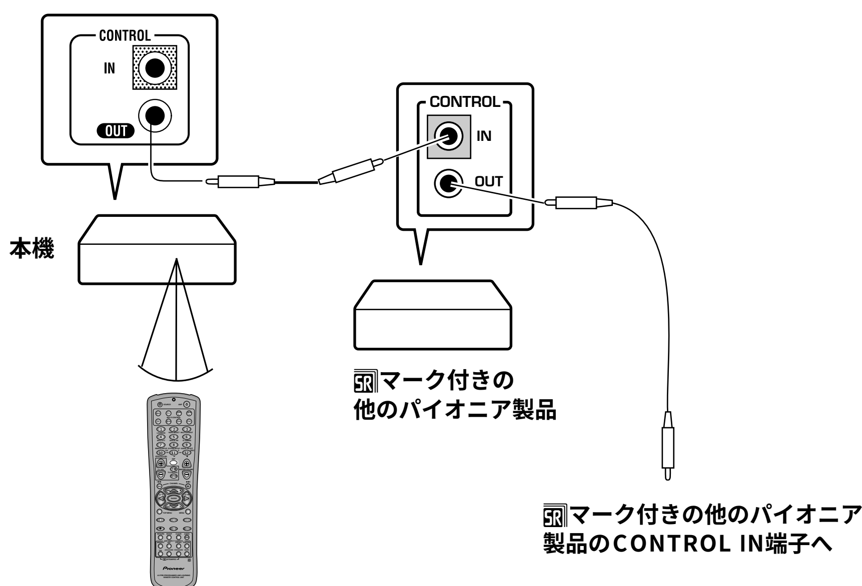




- リモートコントロールと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

他のパイオニア機器を操作する

コントロールコードを接続すると、本機を通して他のSRマーク付きのパイオニア製品を操作できるようになります。操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。このとき、リモコン信号は本機のリモコン信号受光部で受信され、CONTROL OUT端子を通して他機器に送信されます。また、他社のメーカーコードを呼び出したり、他社機器のリモコン信号を記憶（学習）させることにより、当社以外の機器を本機のリモコンで操作することもできます（この場合は、コントロールコードを接続する必要はありません）。詳しくは53～55ページをご覧ください。





- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンで本機を直接操作することはできません（リモコン信号受光部が機能しなくなります）。
- コントロールコードは別売です。ご使用の際は、モノラルミニプラグ付きコードをお買い求めください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずアナログの入出力も接続してください。デジタルの入出力だけでは、正しく動作しません。

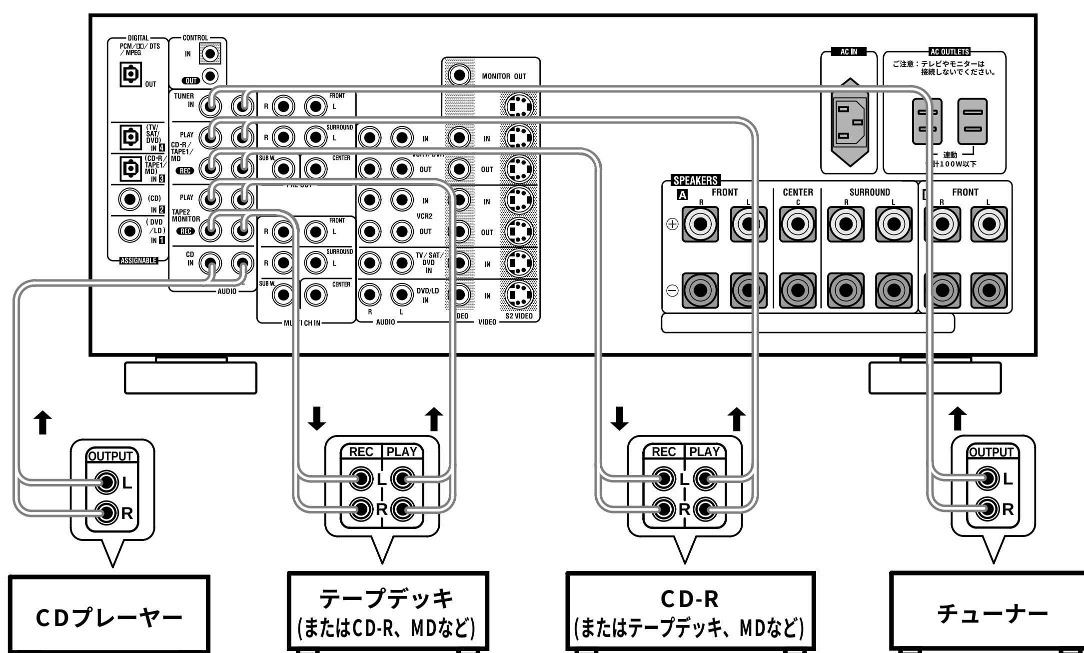
接　続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

- ＤＶＤプレーヤーの接続は「オーディオ機器の接続」、「ビデオ機器の接続」、「デジタル接続」を必ず行ってください。
- ＤＶＤ/ＬＤプレーヤーまたはＬＤプレーヤーの接続は、「ＤＶＤ/ＬＤまたはＬＤプレーヤーの接続」（１８ページ）を必ず行ってください。

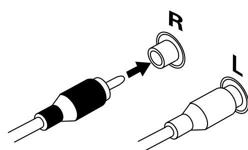
オーディオ機器の接続（アナログ接続）

オーディオ機器は下図のように接続します。
デジタル出力のあるCDプレーヤー、ＭＤレコーダーでは、さらに「デジタル接続」（１５〜１７ページ）もできます。



■オーディオコードの接続

オーディオ機器の接続には、オーディオコード（別売り）を使用します。



白いプラグはL（左）に、赤いプラグはR（右）に接続します。
必ず奥まで差し込んでください。



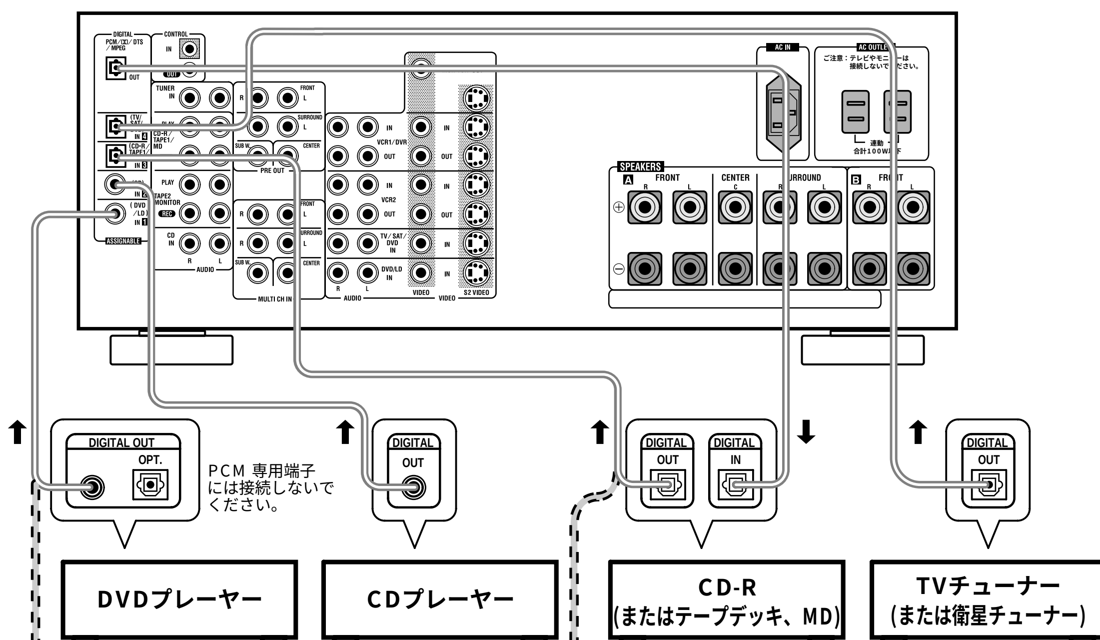
カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

デジタル接続

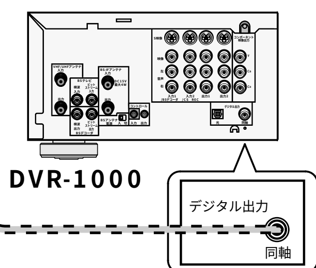
デジタル機器は下図のように接続します。
ドルビーデジタルやＤＴＳサウンドを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。接続は同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで行います（両方を接続する必要はありません）。
本機には同軸ケーブル用端子2 系統と光ファイバーケーブル用端子2 系統の、計4 系統のデジタル入力端子があります。どのデジタル入力端子をどの機器に使用するかを設定できます（次ページ、デジタル入力の設定をご覧ください）。
PCM/DD/DTS/MPEG OUT端子はデジタル入力された信号を出力しますので、光デジタル入力を持つデジタル録音機器と接続してください。



工場出荷時、同軸デジタル入力のIN1はDVD/LDに、IN2はCDに設定されています。光デジタル入力のIN3はCD-R/TAPE1/MDに、IN4はTV/SAT/DVDに設定されています。



<工場出荷時の設定ではない接続例>



DVDプレーヤー

DIGITAL OUT

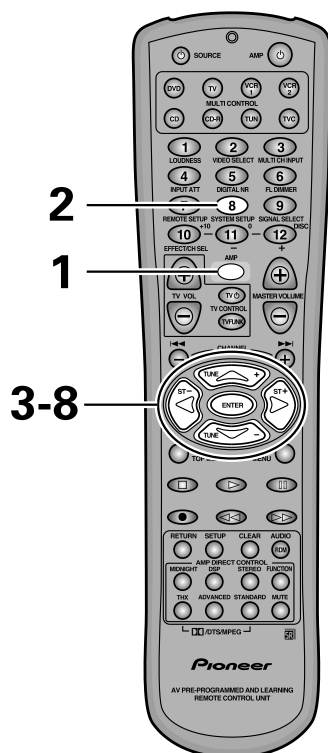
このように工場出荷時のデジタル設定以外の接続をした場合、次ページの「デジタル入力の設定」を行い工場出荷時の設定を変更する必要があります。

本機の同軸デジタル入力（COAX）には同軸デジタル出力をもつ製品（DVR-1000等）を接続することができます。

お手持ちのDVDプレーヤーに同軸出力がない場合には光デジタル出力を使用して接続します。

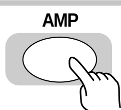
Digital In(デジタル入力の設定)

デジタル入力端子（DIGITAL IN ❶〜❹）に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。お手持ちのデジタル機器をどの番号の端子に接続したかを確認しておいてください。



以下はリモコンの操作方法です。

1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2

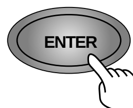


SYSTEM SETUPにする。
ディスプレイが下記の状態になります。

```
Assign Set      ---
```

再度SYSTEM SETUPボタンを押すと、「Assign Set」が消え、もとのディスプレイに戻ります。

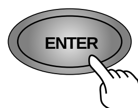
3



Assign Set（入力の設定）にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

```
Digital In      ---
```

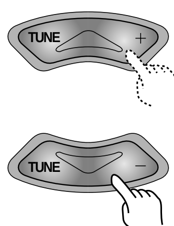
4



Digital In(デジタル入力の設定)にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

```
Digi-1:DVD/LD---
```

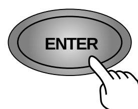
5



設定を変更したいデジタル入力端子（Digital❶〜❹）を選択する。
15ページの＜工場出荷時の設定ではない接続例＞のように、DVDプレーヤーをIN❸に接続したときは、ここで「Digi-3： CD-R」を選択します。

```
Digi-3: CD-R ---
```

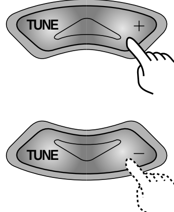
6



手順5 で選択した入力端子の入力切換にする。
ディスプレイの「C D - R 」が点滅します。

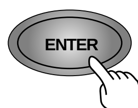
```
Digi-3: CD-R ---
```

7



手順5 で選択した入力端子を使用するデジタル機器に切り換える。
15ページの＜工場出荷時の設定ではない接続例＞の場合、DVD/LDに切り換えます。（この時Digi-1のDVD/LDはOFFに切り換わります）

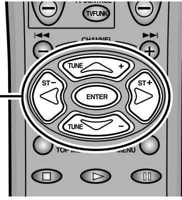
8



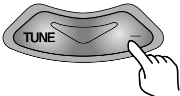
手順6 で切り換えた入力端子に決定する。

9

設定が必要な端子について、手順5 〜8 を繰り返す。

10-15


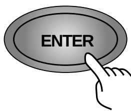
10



「Dig-In End」を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

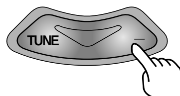
Dig-In End ---dB

11



Digital In(デジタル入力の設定)を終了する。
27ページ「Multi In Set」に進むことができます。

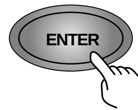
12



「Assign End」を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

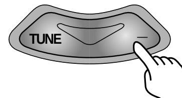
Assign End ---dB

13



Assign Set(入力の設定)を終了する。

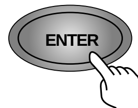
14



「Setup End」を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

Setup End ---dB

15



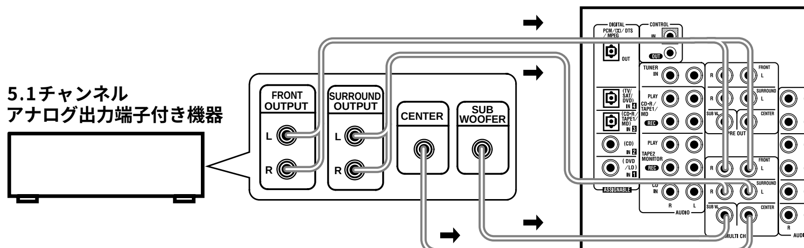
SYSTEM SETUPを終了する。
ディスプレイはもとの表示に戻ります。



- Digi-1～4で同時に同じ入力ファンクションは選択できません。
- VIDEO、TUNERをデジタル入力に指定することはできません。

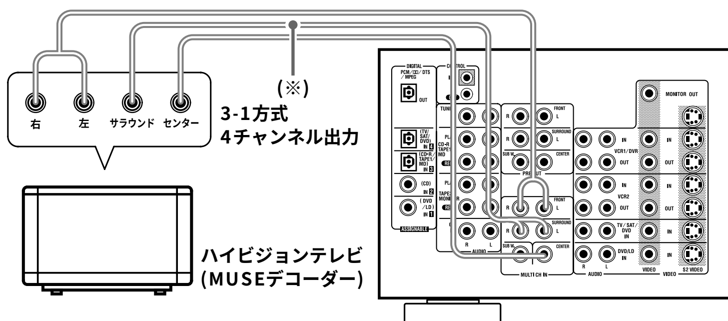
外部デコーダーの接続

本機は5.1チャンネルのアナログ出力を持つ機器と接続できます。MULTI CH IN 端子の使用方法については「外部デコーダーの再生(マルチチャンネル入力)」(49ページ)をご覧ください。



ハイビジョンテレビ(またはMUSEデコーダーの3-1方式4チャンネル放送)との接続

本機裏面のMULTI CH IN端子に、オーディオコード(別売)で接続します。





サラウンドの接続(※)は1P→2Pの分岐コード(モノラル→ステレオ)をお使いください。
(ハイビジョンテレビ(MUSEデコーダー)側にサラウンド右／左の出力がある場合は、通常のステレオオーディオコードをお使いください。)

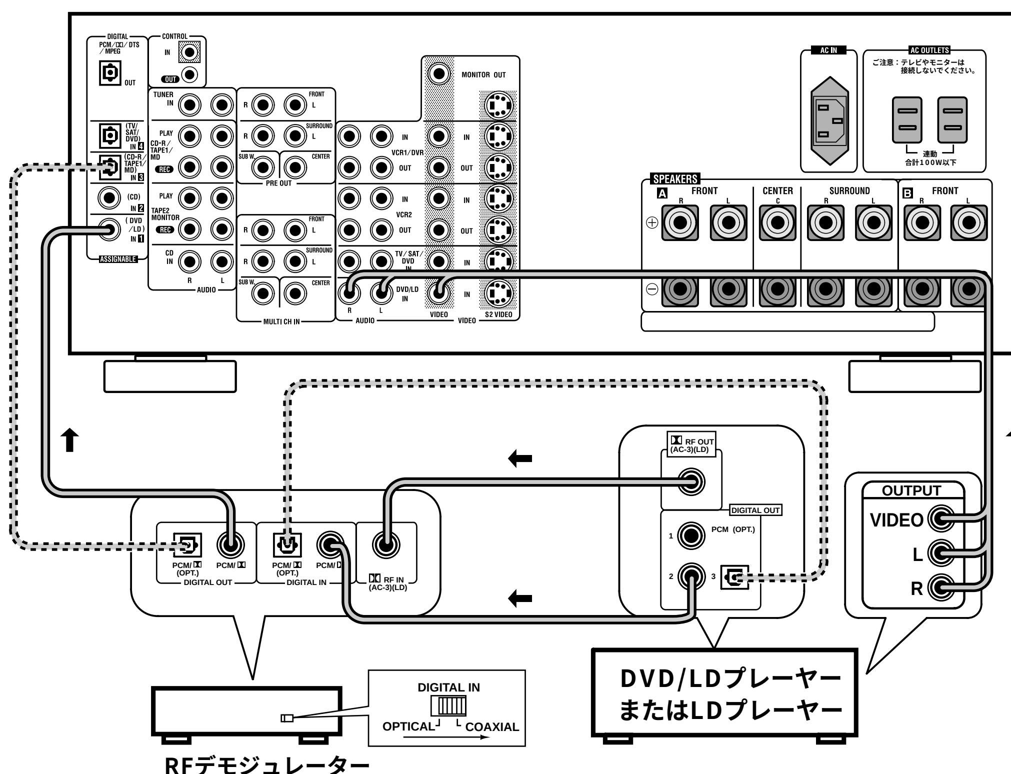
3

接続

DVD/LDまたはLDプレーヤーの接続

ドルビーデジタルやDTSサウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーにDD RF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターを使用してDD RF端子も接続します。RFデモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RFデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。LDのアナログオーディオはデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。



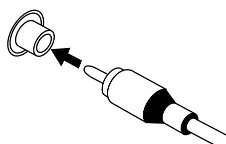
メモ
- DD RF端子の接続は同軸ケーブルで行います。
- デジタル接続は同軸ケーブルでＩＮ 1 、または光ファイバーケーブルでＩＮ 3 に接続します。（両方を接続する必要はありません）。

デジタルIN3またはIN4に接続した場合（たとえば上図のように光ファイバーケーブルでデジタルIN3に接続した場合）
「デジタル入力の設定」（16ページ）で設定が必要です。
どの端子に接続したかを控えておくことをおすすめします。

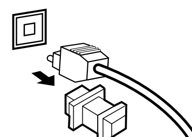
■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続には、市販の同軸ケーブル（ない場合はビデオコード）または光ファイバーケーブル（別売り）を使用します。
光デジタル入出力端子を使用する場合は、キャップを抜き取り、プラグを差し込んでください。必ず奥まで差し込んでください。

同軸ケーブル（またはビデオコード）



光ファイバーケーブル

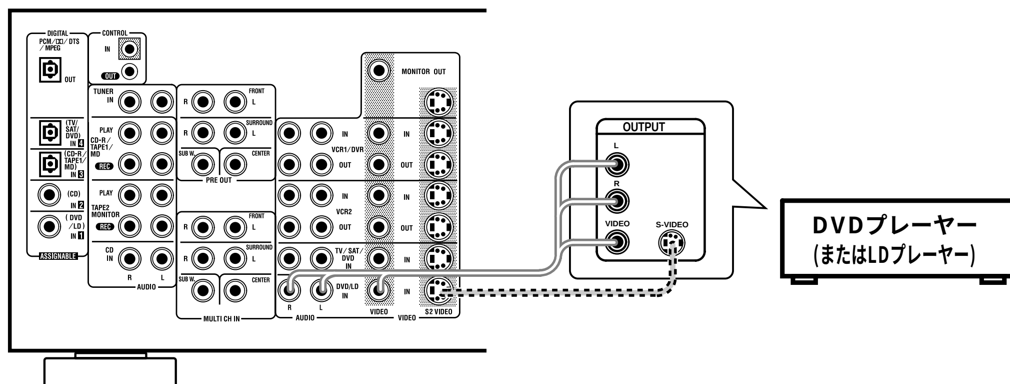


ビデオ機器の接続

ビデオ機器は下図のように接続します。
テレビやビデオ機器にSビデオ端子が付いている場合は、S-VIDEO端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。また、本機のS-VIDEO端子にはS2と表示されていますが、S、S1、S2-VIDEOすべての接続が可能です。

DVDプレーヤー（またはLDプレーヤー）の接続

この接続はアナログ接続です。ドルビーデジタルやDTSサウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。



ビデオデッキまたはDVRの接続

この接続はアナログ接続です。DVRでドルビーデジタルやDTSサウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

ビデオデッキ(1)
(またはDVR)

ビデオデッキ(2)

■前面

ポータブル
DVDプレーヤーなど

AV IN/OUT
S VIDEO OUT

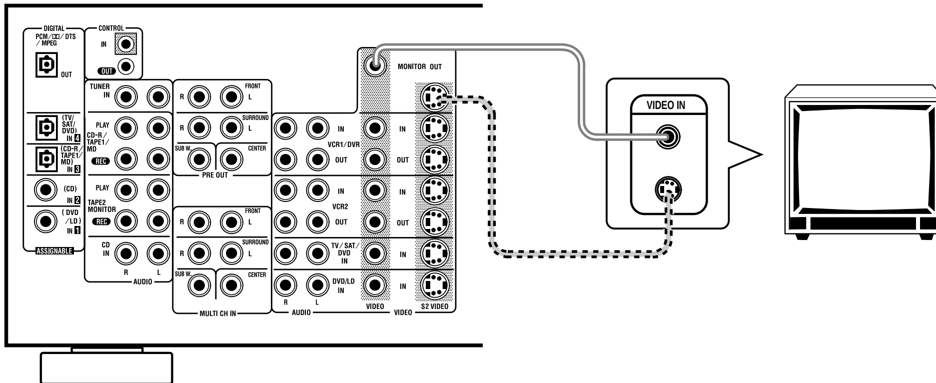
■オーディオ/ビデオコード

ビデオ機器の接続には、オーディオ/　ビデオコード（別売り）を使用します。テレビとの接続には、ビデオコード（別売り）を使用します。

白いプラグはL（左）に、赤いプラグはR（右）に、黄色いプラグはVIDEOに接続します。必ず奥まで差し込んでください。

TVの接続

テレビは下図のように接続します。
テレビにSビデオ端子が付いている場合は、S-VIDEO端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。また、本機のS-VIDEO端子にはS2と表示されていますが、S、S1、S2-VIDEOすべての接続が可能です。

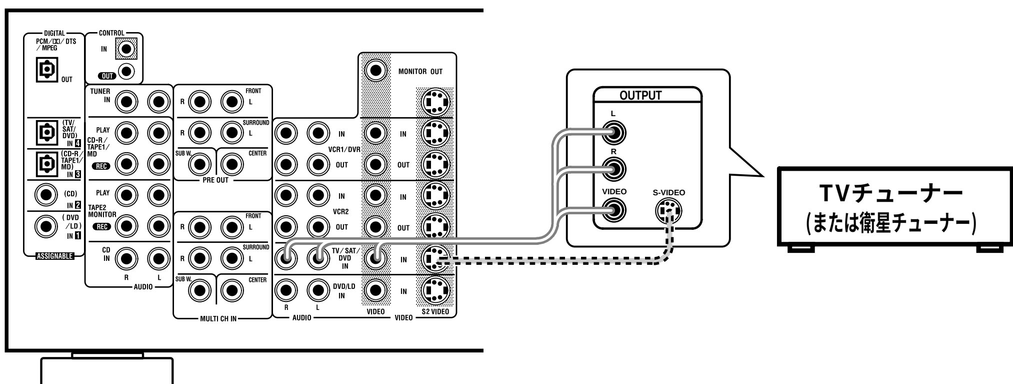




テレビとの接続は、本機と他ビデオ機器との接続に使用したビデオコードと同じタイプのコードを使用してください。
例1．ＤＶＤプレーヤーと本機を「一般のビデオコード」で接続した場合➡ 本機とテレビの接続にも「一般のビデオコード」を使用
例2．ＤＶＤプレーヤーと本機を「Ｓビデオ用コード」で接続した場合➡ 本機とテレビの接続にも「Ｓビデオ用コード」を使用
一般のビデオコードとＳ　ビデオ用コードは両方接続する必要はありません。（本機と接続した他ビデオ機器が2　つ以上あり、それぞれ異なったタイプのコードを使用した場合はそれぞれのコードでテレビにも接続する必要があります。）

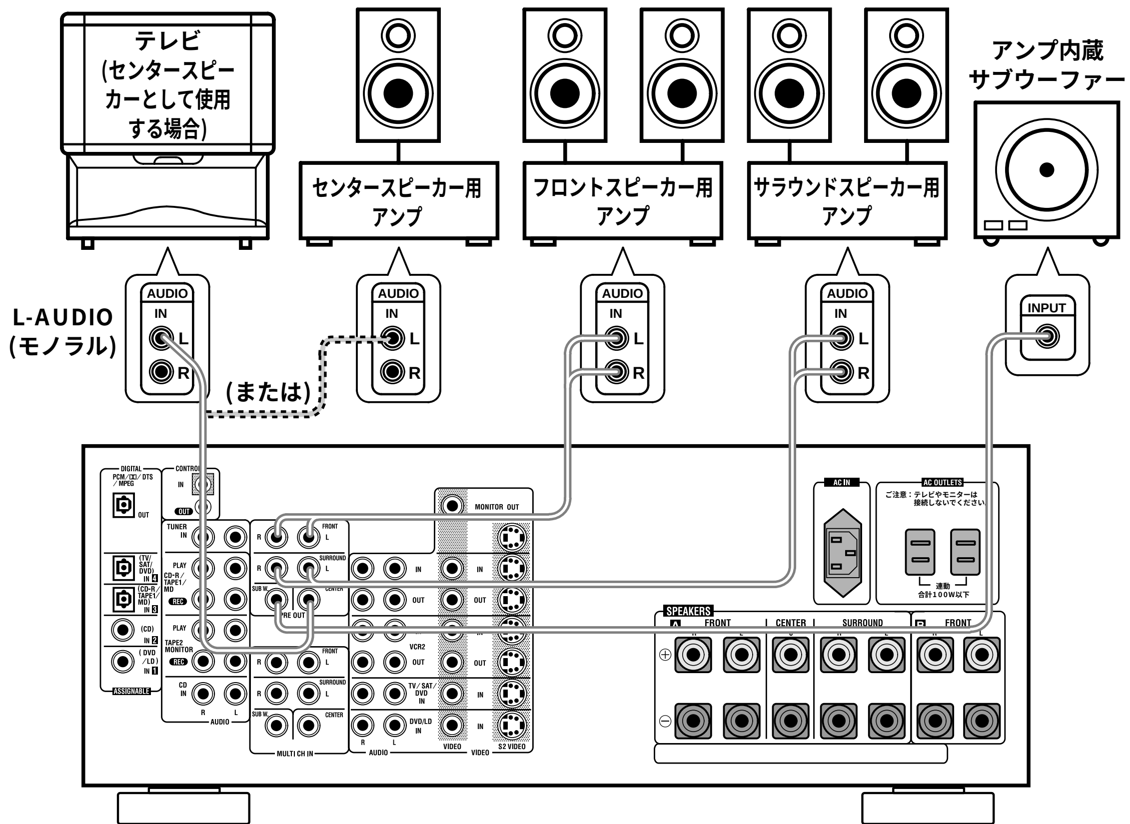
TVチューナーの接続

ＴＶチューナーは下図のように接続します。
テレビやビデオ機器にＳビデオ端子が付いている場合は、S-VIDEO端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。また、本機のS-VIDEO端子にはS2と表示されていますが、S、S1、S2-VIDEOすべての接続が可能です。



他のパワーアンプの接続

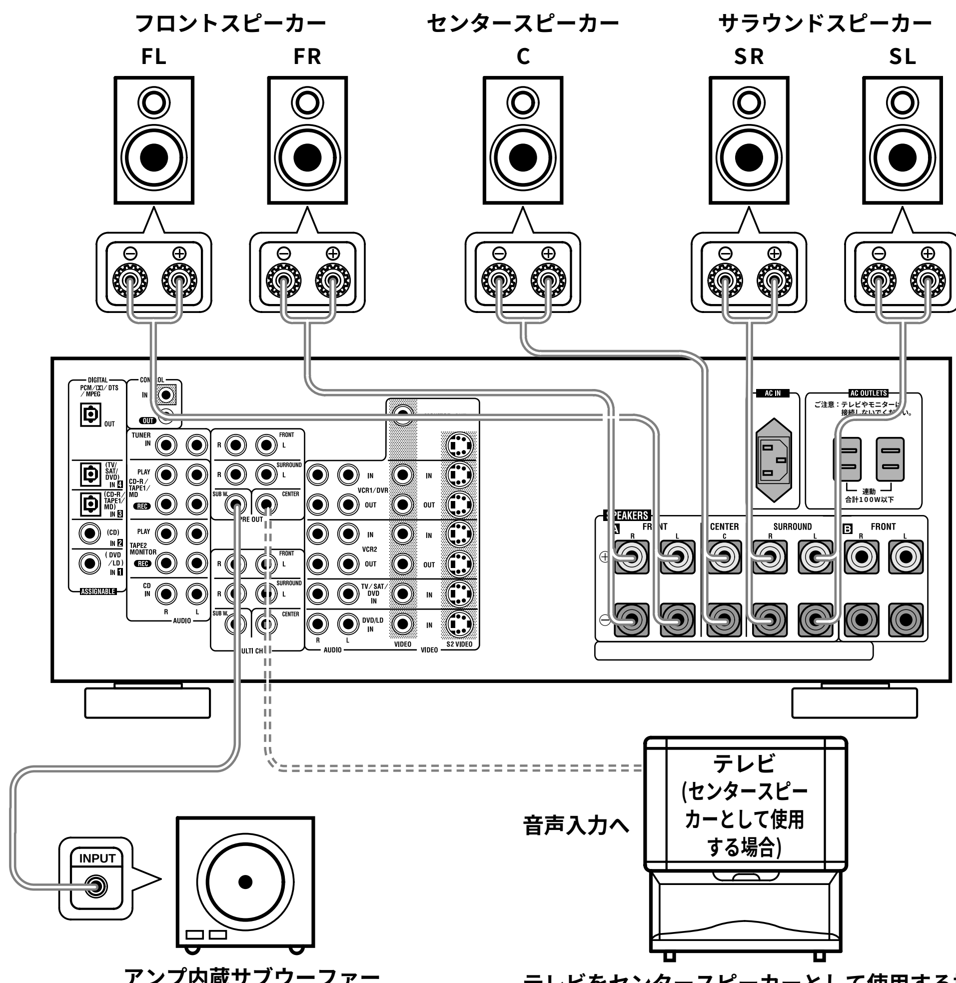
他のアンプをパワーアンプとして本機と組み合わせることができます。



スピーカーの接続

本機でサラウンドを楽しむためには、6 本のスピーカーを接続することをおすすめします。また、スピーカーの大小や有り無し、サブウーファーの有り無しに応じて、さまざまなスピーカーの設定ができます（詳しくは28～29ページをご覧ください）。

- 左のスピーカーはL端子に、右のスピーカーはR端子に接続します。また、スピーカーと本機の⊕および⊖端子も正しく接続してください。
- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω～16Ωのものを使用してください。本機はスピーカーインピーダンスを変更することができます。工場出荷時は8Ω～16Ωですが、お手持ちのスピーカーが6Ω～8Ω未満の場合は設定を変更してください。変更のしかたは、「スピーカーインピーダンスの設定」（次ページ）をご覧ください。
- 本機はAとBの2組のフロントスピーカーを接続できます。スピーカーAはメインシステムで、サラウンド再生に対応します。スピーカーBはステレオ再生に対応します。スピーカーAとBを同時に選択すると、フロントスピーカーA、スピーカーBとサブウーファーのみから音が出ます。このときセンタースピーカーとサラウンドスピーカーの音は、フロントスピーカーに振り分けて出力されます。また、ステレオモード以外でスピーカーBを選択したときは、センタースピーカーとサラウンドスピーカー、サブウーファーの音は、スピーカーBから出力されます（サブウーファーから音は出ません）。

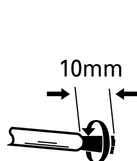


サブウーファーには別の接続方法もあります。詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

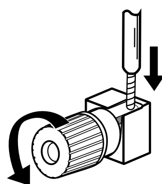
テレビをセンタースピーカーとして使用する場合は、本機のPREOUT CENTER端子とテレビのオーディオ入力端子を接続してください。この場合は上図のセンタースピーカーは接続しません。接続するテレビの取扱説明書もご覧ください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

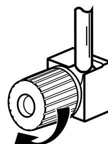
① 線をネジる。



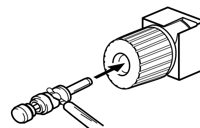
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。



③ スピーカー端子を締めつける。

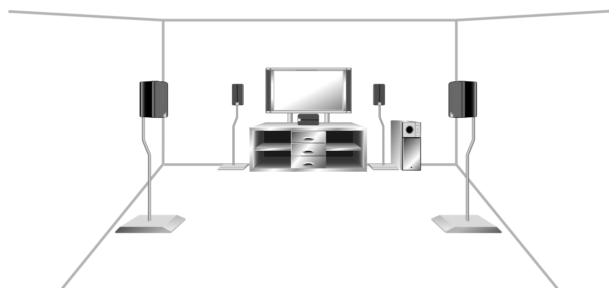


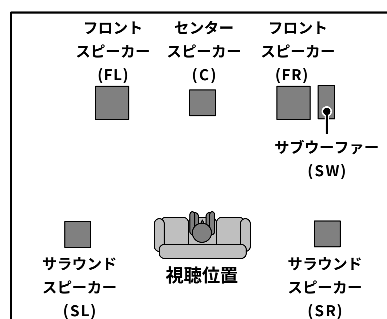
バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)



スピーカーの設置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを設置してください。







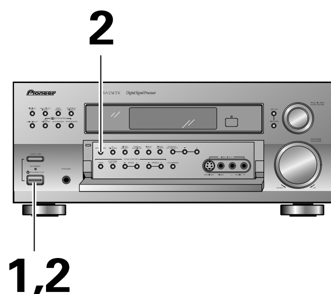
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。



センタースピーカーをテレビの上側に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

スピーカーインピーダンスの設定

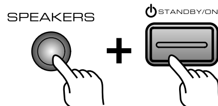
スピーカーインピーダンスの設定は、6Ω～8Ω未満の設定と8Ω～16Ωの設定の2通りあります。



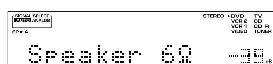
1 **本機をスタンバイ状態にする。**

スタンバイインジケーターが点灯します。

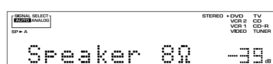
2 **スピーカーインピーダンスを変更する。**



SPEAKERSボタンを押しながらSTANDBYボタンを押す。



スピーカーインピーダンスが6Ω～8Ω未満の設定



スピーカーインピーダンスが8Ω～16Ωの設定

再度、設定を変更したいときは手順1からやり直してください。

電源コードの接続

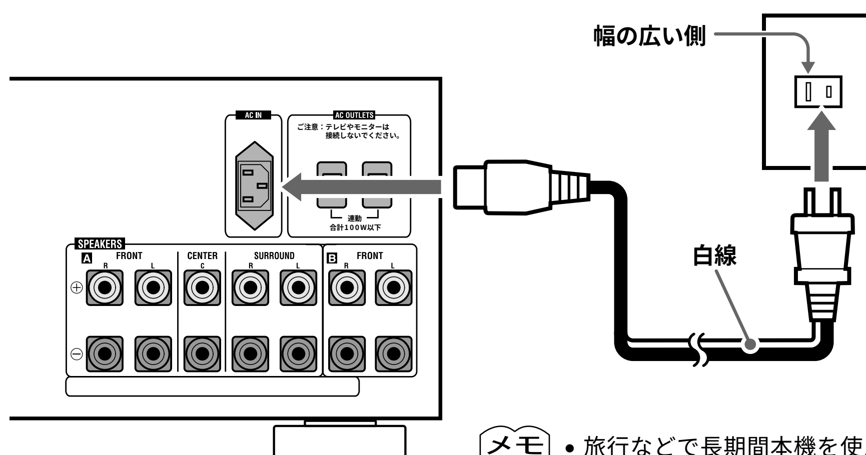
全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。

電源コードのつなぎかた

付属の電源コードを本機のAC INに差し込み、もう一方を壁のコンセントに差し込みます。
本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせせることをお薦めします。下図のように電源プラグのコードに白線のある側をコンセントの幅の広い方(アース側)に合わせて差し込んでください。



- 本機の電源コードは着脱式になっています。付属(電流容量10A、機器側3Pプラグインソケット方式)以外の電源コードを使用される場合は、お客様ご自身の責任において使用していただくことになります。
- 本機のAC INのアース端子は本機に接続されていません。





- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備コンセント(AC OUTLETS)の接続

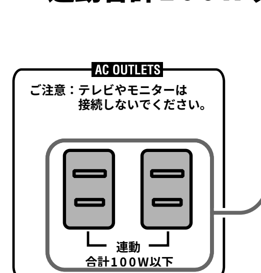
[連動合計100W以下]

本機の電源スイッチのON/STANDBY(OFF)の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。
接続した機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。



- 消費電力がパネルに表示されているワット数を超えるような電気器具(暖房、アイロン、テレビ、トースター、ドライヤーなど)は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- テレビやモニターは接続しないでください。
  表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れて、パネル表示値を超える場合があります。

連動合計100W以下



セットアップ

■ **操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。**

サラウンドに関する設定

本機のサラウンド効果を最大限に引き出すには、9つの設定が必要です。とくにHOME THX CINEMAやDTS、ドルビーデジタル対応のソフトを再生する場合は、サラウンドに関する設定が重要な役割を果たします。一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、システムを使用するたびに設定し直す必要はありません(ただし、スピーカーシステムの構成を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります)。
設定項目は全部で9つあります。必要に応じて設定項目を選択し、各種設定、調整を行ってください。
設定項目の選択は、リモコンのSYSTEM SETUPボタンと▲/▼ボタン、ENTERボタンを使用します。本体での設定項目の選択は、SETUPボタン、RETURNボタン、MULTI JOGを使用します。MULTI JOGは、左に回すとリモコンの▼ボタン、右に回すとリモコンの▲ボタン、押すとリモコンのENTERボタンと同じ役割となります。(詳しくは次ページの操作一覧表をご覧ください)
9つの設定項目は3つのセットアップモード(「Assign set」、「Surround Set」、「Rename」)から選択します。
選択、設定の操作は下の表と26～39ページをご覧ください。

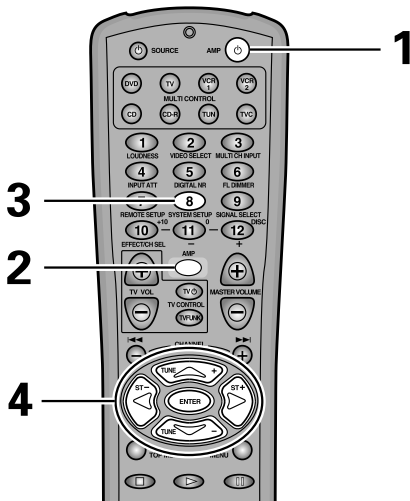
1	2	3	4	5
本体操作 SET UP	左右に回す MULTI JOG PUSH ENTER	押す MULTI JOG PUSH ENTER	左右に回す MULTI JOG PUSH ENTER (RETURN 2へ戻ります。)	押す MULTI JOG PUSH ENTER
システムセットアップモードになります。	Assign Setup (入力に関する設定) Assign Set ---	決定する ➡	Digital-In Select (デジタル入力の設定)P.16 Digital In --- ↔ Multi Channel In (マルチチャンネル入力の設定)P.27 Multi In Set ---	4で選んだセットアップモードになります。
	Surround Setup (サラウンドに関する設定) Surround Set ---	決定する ➡	Speaker Setting (スピーカーの設定)P.28 Speaker Set --- ↔ Channel Delay (スピーカーからの距離の設定)P.30 Channel Delay--- ↕ Channel Level (スピーカー出力レベルの設定)P.32 Channel Level--- ↕ Crossover Network (クロスオーバー周波数の設定)P.34 Crossover --- ↔ Bass Peak Level (超低域音声のピークレベル設定)P.35 Bass Level --- ↕ D-Range Control (ダイナミックレンジコントロールの設定)P.37 D-Range Cont ---	
	Function Rename (ファンクション表示の設定)P.38 Rename ---	決定する ➡	名前を変更するファンクションを選ぶ → DVD/LD TV/SAT ⟷ CD ⟷ CD-R/TAPE 1 ← → VCR 2 ⟷ VCR 1/DVR ⟷ VIDEO ⟷ TUNER ←	名前を変更するファンクションになります。
1 リモコン操作 AMP ⬇ 8 SYSTEM SETUP	2 TUNE + / TUNE −	3 ENTER	4 TUNE + / TUNE −	5 ENTER

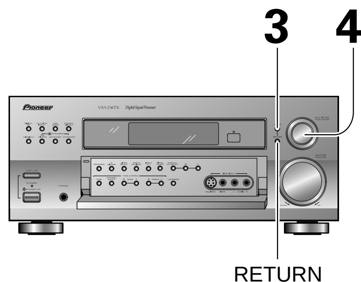
4 セットアップ

セットアップ

右記の表は、「サラウンドに関する設定」を行う際の、本体およびリモコン操作一覧表です。この表を参考にセットアップを行ってください。

	システムセットアップモードにする。	設定項目や文字を選択する。	選択した設定項目や内容、文字を決定する。	システムセットアップモードを終了する。	1つ前の操作に戻る。
本体	SET UP	左右に回す MULTI JOG PUSH ENTER	マルチジョグを押す MULTI JOG PUSH ENTER	SET UP	RETURN
リモコン	AMP ⬇ 8 SYSTEM SETUP	TUNE + / TUNE −	ENTER	8 SYSTEM SETUP	





1 AMP

本機の電源を入れる。

2 AMP

リモコンをアンプ操作モードにする。

3 8 SYSTEM SETUP

SYSTEM SETUPにする。

ディスプレイが下記の状態になります。

Assign Set ---

再度SYSTEM SETUPボタンを押すと、「Assign Set」が消え、もとのディスプレイに戻ります。

4 TUNE + / TUNE −

設定項目を選択する。

それぞれの設定項目については25ページをご覧ください。
ここで選択できる項目は「Assign set」、「Surround Set」、「Rename」です。

5 **27～39ページに記載されている設定手順に従って詳細設定を行う。**

本機を初めて接続する場合は、すべての項目を一通り設定することをおすすめします。

SYSTEM SETUPを終了するには

リモコンのSYSTEM SETUPボタンまたは本体のSETUPボタンを押します。ディスプレイはもとに戻ります。

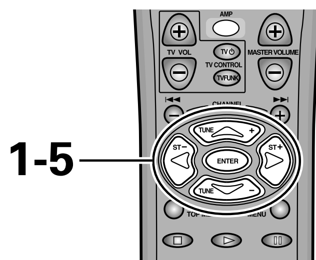


- セットアップを行っているときに、間違えた設定をしてしまったときは、本体のRETURNボタンを押すことで1つ前の操作に戻ることができます。
- SYSTEM SETUPモードの設定を1項目終了すると、自動的に次の項目が選択されます。たとえば、Speaker Setの設定を終了すると、次は自動的にChannel Delayが選択されます。

Assign Set

Multi In Set（マルチチャンネル入力の設定）

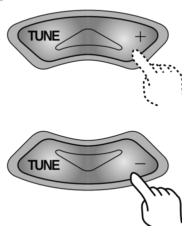
MULTI CH INモードには各チャンネルレベル等を調整できるADJUSTモードもあります。工場出荷時の設定はBYPASSに設定されています。BYPASSモードは高品位、高SN比にて再生できるモードです。各チャンネルのレベルを個別に調整することはできません。ADJUSTモードは各チャンネルのレベルを個別に調整できる便利なモードです。16～17ページDigital Inの手順11からこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず26ページの手順1～3を行ってから手順2にお進みください。





26ページの手順4（1、2、3、に続く）の操作となります。

1



Assign Set（入力の設定）を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

`Assign Set ---`

2



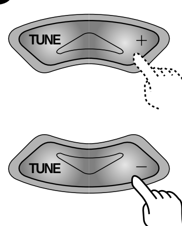
Assign Set（入力の設定）にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

`Digital In ---`



- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（25～26ページ）をお読みください。

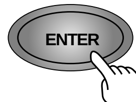
3



Multi In Set（マルチチャンネル入力の設定）を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

`Multi In Set ---`

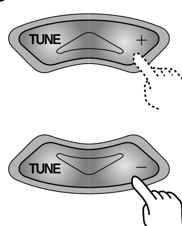
4



Multi In Set（マルチチャンネル入力の設定）にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

`Ch Lvl:BYPASS---`

5



マルチチャンネル入力の設定を、BYPASS、ADJUSTのどちらかに選択する。

`Ch Lvl:BYPASS---`

`Ch Lvl:ADJUST---`

6



マルチチャンネル入力の設定を決定する。
ディスプレイが下記の状態になります。

`Assign End ---`

7



設定を終了する。
「Surround Set」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには
手順1から設定をやり直してください。

セットアップ

Surround Set

Speaker Set（スピーカーの設定）

さまざまなスピーカーシステム、視聴環境などに合わせたサラウンド再生を行うため、接続されたスピーカーの有り（YES）/無し（NO）、追加（PLUS）、大（LARGE）/小（SMALL）を設定します。設定内容によって、低域音声を再生するスピーカーが変わります。

フロントスピーカー（LARGE/SMALL）（初期設定は大（LARGE））

- 低音域を再生する十分な能力がある場合、またはサブウーファーが接続されていない場合はLARGEを選択する。
- 低音域をすべてサブウーファーから再生する場合はSMALLを選択する（サブウーファーが自動的に有り（YES）になります）。

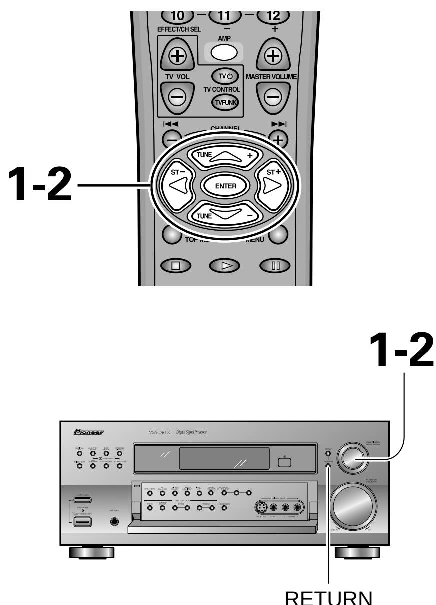
センター/サラウンド（LARGE/SMALL/NO）（初期設定は大（LARGE））

- 低音域を再生する十分な能力がある場合は、LARGEを選択する（フロントスピーカーがSMALLのときはLARGEを選択できません）。
- 低音域をすべてサブウーファーまたは他のスピーカーから再生する場合はSMALLを選択する。
- センター/ サラウンドスピーカーが接続されていない場合はNOを選択する（センタースピーカーがNOのとき、センターチャンネルはフロントスピーカーから再生されます。またサラウンドスピーカーがNOのとき、サラウンドチャンネルはフロントスピーカーとセンタースピーカーから再生されます）。

サブウーファー（YES/PLUS/NO）（初期設定は有（YES））

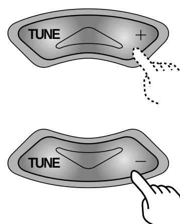
- サブウーファーが接続されている場合はYESまたはPLUSを選択する（YESを選択するとLFE成分を出力します。PLUSを選択すると、通常はフロントやセンタースピーカーから再生している低音域をサブウーファーからも再生するため、あらゆるソースでサブウーファーから音が出ます）。
- サブウーファーが接続されていない場合はNOを選択する（低音域はすべてフロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーから再生されます）。

27ページの「Multi In Set」からこの項目に進んだ場合は、下の手順2にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず26ページの手順1～3を行ってから以下の手順にお進みください。



26ページの手順4（1、2、3、に続く）の操作となります。

1

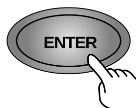


Surround Set（サラウンドの設定）を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

Surround Set ---

2



Surround Set（サラウンドの設定）にする。

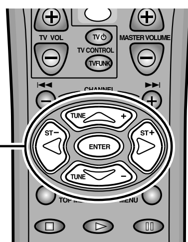
ディスプレイが下記の状態になります。

Speaker Set ---

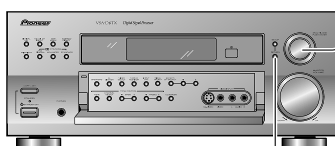


- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（25～26ページ）をお読みください。

3-12

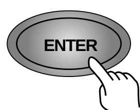


3-12



RETURN

3

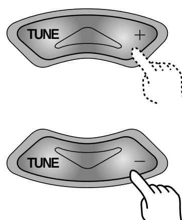


Speaker Set（スピーカーの設定）にする。

ディスプレイが下記の状態になります。

SP:FREE ---

4

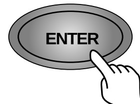


「FREE」または「THX」のどちらかを選択する。

「FREE」を選択すると、自由にスピーカー設定をすることができます。

「THX」を選択すると、THX推奨のスピーカー設定が自動的に設定されます。

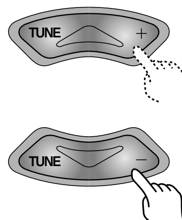
5



「FREE」または「THX」のどちらかを決定する。

「THX」を選択、決定したときは次ページの「Channel Delay」に進みます。

6

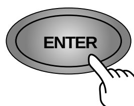


設定するスピーカーを選択する。

設定できるスピーカーは、「Front」、「Center」、「Surround」、「Subwoofer」の4 種類です。

Front: LARGE ---

7

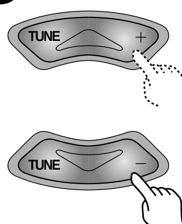


設定するスピーカーを決定する。

選んだスピーカーの現在の設定が点滅します。

Front: LARGE ---

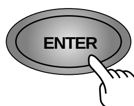
8



設定するスピーカーをLARGE、SMALL、YES、NO、PLUSのいずれかに設定する。

設定内容については、前ページの説明をお読みください。

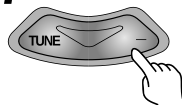
9



手順6 で選択したスピーカーの設定を決定する。

10 **それぞれのスピーカーに、手順6 ～9 を繰り返す。**

11

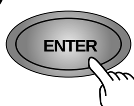


Sp Set Endを選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

Sp Set End ---

12



設定を終了する。

次ページの「Channel Delay」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには

手順1 から設定をやり直してください。

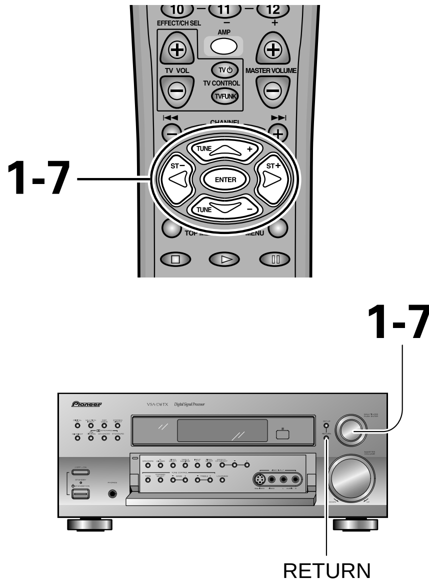


フロントスピーカーを大（LARGE）にして、サブウーファーをPLUSにした場合などは、低音が打ち消し合って十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、まずスピーカーの設置場所や向きを変えてみてください。それでも十分な低音の効果が発揮されない場合は実際に音を出しながらフロントスピーカーを小（SMALL）にしたり、サブウーファーを有り（YES）にしてみて比較し、最適な設定にしてください。

Channel Delay（スピーカーからの距離の設定）

リスニングポジション（視聴位置）からスピーカーまでの距離を指定することにより、各チャンネルの再生にディレイタイムが付加され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。それぞれのスピーカーから視聴位置までの距離を測り、ここで指定してください。本機は、指定された距離から自動的にディレイタイムを算出します。

28ページSpeaker Setからこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず26ページの手順1～3を行ってから以下の手順にお進みください。

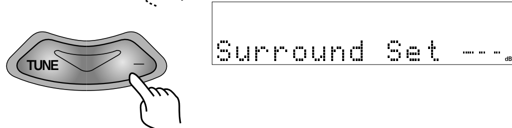


26ページの手順4（1、2、3、に続く）の操作となります。

1

Surround Set（サラウンドの設定）を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。



2

Surround Set（サラウンドの設定）にする。

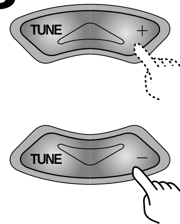
ディスプレイが下記の状態になります。

Speaker Set ---



- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（25～26ページ）をお読みください。

3



Channel Delay（スピーカーからの距離の設定）を選択する。

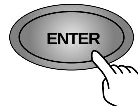
ディスプレイを下記の状態にします。

Channel Delay---



工場出荷時は2ｍに設定されています。

4

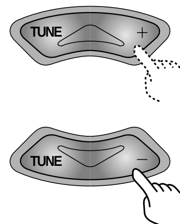


Channel Delay（スピーカーからの距離の設定）にする。

ディスプレイが下記の状態になります。

FL 2.0m---

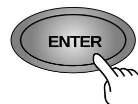
5



設定するスピーカーを選択する。

選択できるスピーカーは順に、ＦＬ（フロント左）、ＣＴ（センター）、ＦＲ（フロント右）、ＳＲ（サラウンド右）、ＳＬ（サラウンド左）、ＳＷ（サブウーファー）です。

6

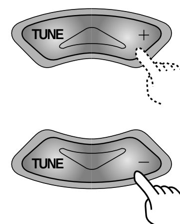


設定するスピーカーを決定する。

選んだスピーカーの現在の設定が点滅します。

FL 2.0m---

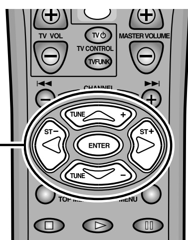
7



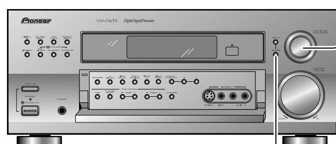
手順5で選択したスピーカーからの距離を指定する。

ボタンを押すたびに、0.1ｍ～9ｍの範囲内において、0.1ｍ間隔で指定することができます。

8-11

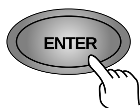


8-11



RETURN

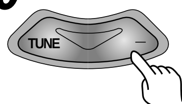
8



手順5 で選択したスピーカーからの距離の設定を決定する。

9 **それぞれのスピーカーに、手順5 ～8 を繰り返す。**

10

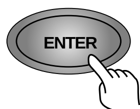


Ch Delay Endを選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

```
Ch Delay End ---dB
```

11



設定を終了する。

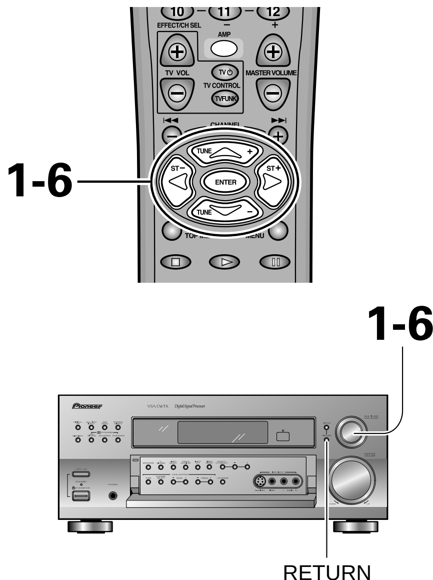
次ページの「Channel Level」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには

手順1 から設定をやり直してください。

Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）

リスニングポジション（視聴位置）からの距離に合わせて、各スピーカーの出力レベルを調整します。テスト音声を耳で実際に確かめながらスピーカーの再生レベルを調整します。
30ページChannel Delayからこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず26ページの手順1～3を行ってから以下の手順にお進みください。



26ページの手順4（1、2、3、に続く）の操作となります。

1 **Surround Set（サラウンドの設定）を選択する。**
ディスプレイを下記の状態にします。

Surround Set ---

2 **Surround Set（サラウンドの設定）にする。**
ディスプレイが下記の状態になります。

Speaker Set ---

メモ
- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（25～26ページ）をお読みください。

3 **Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）を選択する。**
ディスプレイを下記の状態にします。

Channel Level---

4 **Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）にする。**
ディスプレイが下記の状態になります。

T-TONE：AUTO ---

5 **テストトーンの再生方法をAUTOまたはMANUALのどちらかに選択する。**

AUTO（自動テストトーン）
各スピーカーからのテストトーンの再生を自動的に切り換えます。テストトーンは次の順序で自動的に再生されます。

FL → CT → FR → SR → SL → SW → FL

MANUAL（手動テストトーン）
各スピーカーからのテストトーンの再生を手動で切り換えます。自分で再生を切り換えながら調整することができます。

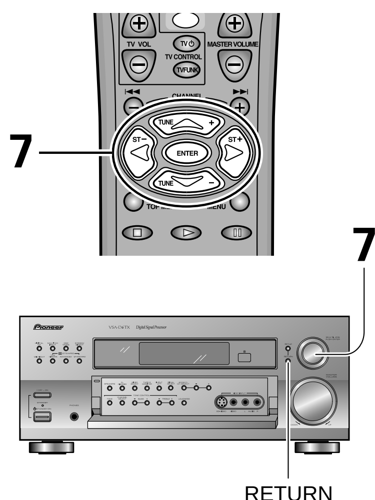
～ご注意～
テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

6 **テストトーンの再生を実行する。**
実際にテストトーンが再生されるまでしばらくお待ちください。

Please Wait -39 　 Lvl.OK=ENTER -39

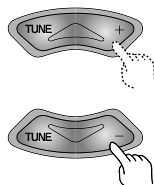
AUTOの時は上記のディスプレイが交互に表示します。MANUALの時は「Please　Wait」を表示した後「FL 0.0dB」を表示します。

メモ
テストトーンの再生を止めるにはENTERボタンまたはMULTI JOGを押します。



7　視聴位置から聞こえる各スピーカーのテストトーンが同じ大きさになるように調整する。

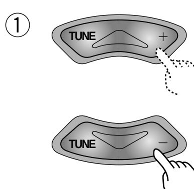
[AUTOモード]



テストトーンを再生しているスピーカーのレベルを調整する。
すべてのスピーカーの調整が終了したらENTERボタンまたはMULTI JOGを押してください。MASTER VOLUMEが元の位置に戻り次ページの「Crossover」に進みます。

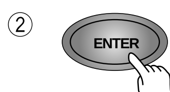
[MANUALモード]

①



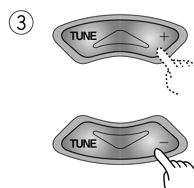
レベルを調整するスピーカーを選択する。

②



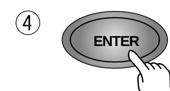
レベルを調整するスピーカーを決定する。

③



スピーカーのレベルを調整する。

④



レベルを調整するスピーカーを決定する。

⑤ それぞれのスピーカーについて①〜④を繰り返します。すべてのスピーカーの調整が終了したら、①で「Ch Level End」を選択し、ENTERボタンまたはMULTI JOGを押してください。MASTER VOLUMEが元の位置に戻り、次ページの「Crossover」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには

手順1から設定をやり直してください。

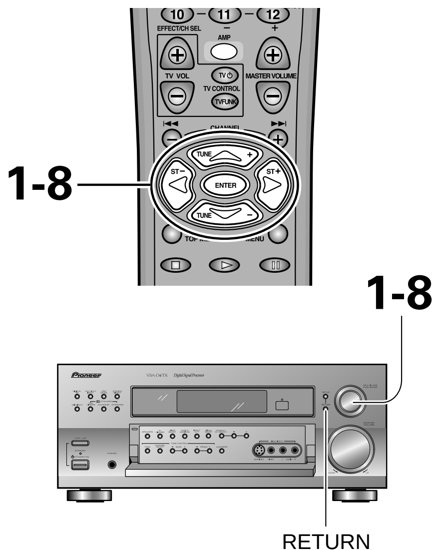
メモ

- 各サウンドモード(ΩΩ/DTS/MPEG、STEREO、MULTI CH IN、DSPモード)ごとに設定できます。
- SYSTEM SETUPからChannel Level(スピーカー出力レベルの設定)にしなくても、EFFECT/CH SELボタンと ＋/－ボタンで各スピーカーのレベルを設定できます(テストトーンは出ませんのでソースを再生してください)。
- SYSTEM SETUPモードからスピーカー出力レベルの設定を行うと、これらのサウンドモードごとに設定した内容はクリアされます。
- テストトーンの再生で、サブウーファーからの音量は実際よりも小さく聞こえる場合があります。
- 音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをC ウェイト/スローモードで75dB SPLに調整してください。

Crossover(クロスオーバー周波数の設定)

小さなスピーカーでは十分な低音域再生ができないため、28ページのSpeaker Set(スピーカーの設定)で、小(SMALL)に設定されたスピーカーの低音域を、十分に再生できるサブウーファーまたは大(LARGE)に設定されたスピーカーに割り当てます。このとき何Hz以下の音(クロスオーバー周波数)を割り当てるかをここで設定します。

Channel Levelからこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず26ページの手順1～3を行ってから以下の手順にお進みください。



26ページの手順4(1、2、3、に続く)の操作となります。

1 **Surround Set (サラウンドの設定)を選択する。**

ディスプレイを下記の状態にします。

Surround Set ---

2 **Surround Set (サラウンドの設定)にする。**

ディスプレイが下記の状態になります。

Speaker Set ---

メモ
- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」(25～26ページ)をお読みください。
- 工場出荷時の設定は80Hzです。

3 **Crossover(クロスオーバー周波数の設定)を選択する。**

ディスプレイを下記の状態にします。

Crossover ---

4 **Crossover(クロスオーバー周波数の設定)にする。**

ディスプレイが下記の状態になります。

X Over: 80Hz ---

5 **クロスオーバー周波数を指定する。**

80Hz
80Hz以下の低音域をサブウーファーまたは大(LARGE)スピーカーから再生します。

100Hz
100Hz以下の低音域をサブウーファーまたは大(LARGE)スピーカーから再生します。

150Hz
150Hz以下の低音域をサブウーファーまたは大(LARGE)スピーカーから再生します。

6 **設定を終了する。**

次ページの「Bass Level」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには

手順1から設定をやり直してください。

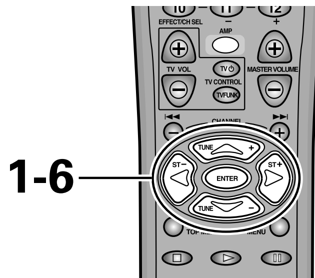
メモ

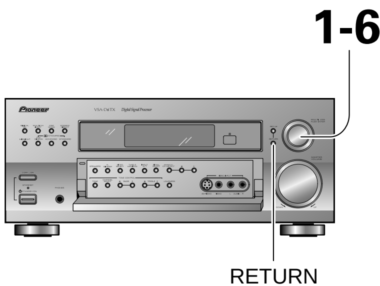
THX推奨のスピーカー(SMALL)を使用するときは、80Hzにしてください。

Bass Level（超低域音声のピークレベル設定）

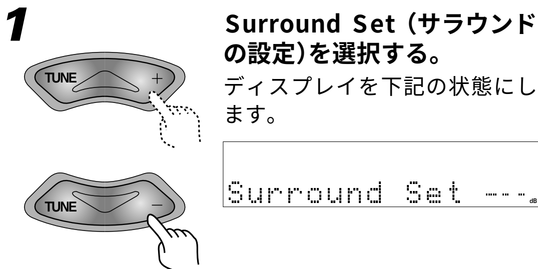
ドルビーデジタルおよびＤＴＳ対応のソフトは超低域信号成分（ＬＦＥチャンネル）を多く含んでいますが、この超低域周波数信号がスピーカーの再生能力を超えると、再生音声に歪みが生じることがあります。ピークレベルを設定することにより歪みを防止します。ここでは、ＬＦＥ チャンネルのピークレベルを設定する方法について説明します。

Crossoverからこの項目に進んだ場合は、下の手順４ にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず２６ページの手順１〜３を行ってから以下の手順にお進みください。



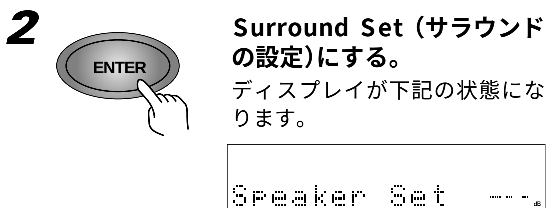


２６ページの手順４（１、２、３、に続く）の操作となります。

1


Surround Set（サラウンドの設定）を選択する。

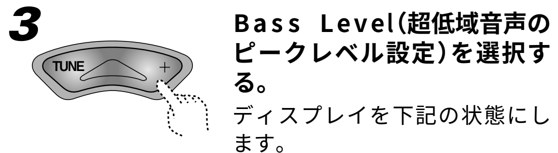
ディスプレイを下記の状態にします。

2


Surround Set（サラウンドの設定）にする。

ディスプレイが下記の状態になります。

メモ
- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（２５〜２６ページ）をお読みください。

3


Bass Level（超低域音声のピークレベル設定）を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

4


Bass Level（超低域音声のピークレベル設定）にする。

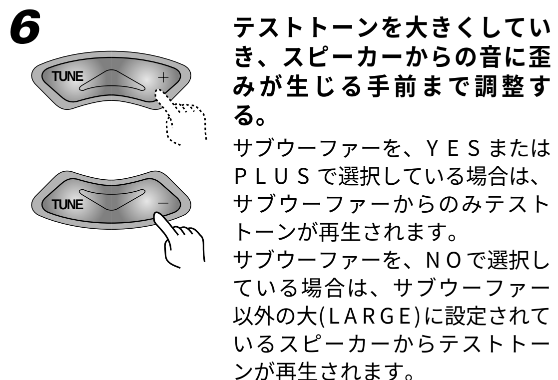
ディスプレイが下記の状態になります。

5


テストトーンの再生を実行する。

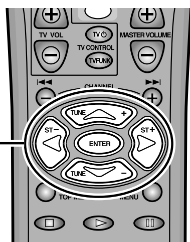
MASTER VOLUMEは自動的に最小になります。
ディスプレイが下記の状態になります。（この状態では音は聞こえません）

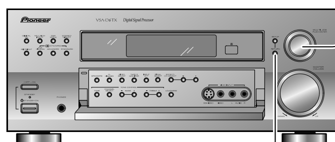
メモ 手順5でENTERボタンまたはMULTI JOGを押す前に▼/▲ボタンで「Set Cancel」を選択すると、ここでの機能が解除されます。

6


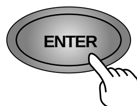
テストトーンを大きくしていき、スピーカーからの音に歪みが生じる手前まで調整する。

サブウーファーを、ＹＥＳまたはＰＬＵＳで選択している場合は、サブウーファーからのみテストトーンが再生されます。
サブウーファーを、ＮＯで選択している場合は、サブウーファー以外の大(ＬＡＲＧＥ)に設定されているスピーカーからテストトーンが再生されます。





7

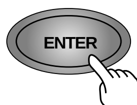


超低域音声のピークレベルを決定する。

MASTER VOLUMEは自動的にもとの位置に戻ります。
ディスプレイが下記の状態になります。

BassLevel End---

8



設定を終了する。

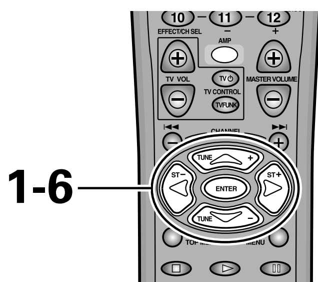
次ページの「D-Range Cont」に進みます。

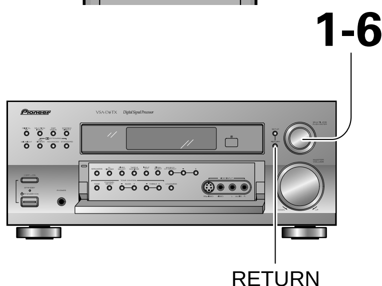
次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには

手順1から設定をやり直してください。

D-Range Cont（ダイナミックレンジコントロールの設定）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さい音から大きい音までを正しく（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、ダイナミックレンジコントロールを設定することで微小な音も聞き取りやすくなります。ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、ほかのソフトでもミッドナイトリスニングモード（４７ページ）で同様の効果を得ることができます。
Bass Levelからこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、まず２６ページの手順１～３を行ってから以下の手順にお進みください。





２６ページの手順4（１、２、３、に続く）の操作となります。

1
Surround Set（サラウンドの設定）を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

Surround Set ---

2
Surround Set（サラウンドの設定）にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

Speaker Set ---


- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」（25～26ページ）をお読みください。

3
D-Range Cont（ダイナミックレンジコントロールの設定）を選択する。
ディスプレイを下記の状態にします。

D-Range Cont ---

4
D-Range Cont（ダイナミックレンジコントロールの設定）にする。
ディスプレイが下記の状態になります。

D-Range:OFF ---

メモ　工場出荷時はOFFに設定されています。

5
ダイナミックレンジコントロールの設定レベルを選択する。

OFF
ダイナミックレンジを圧縮しません。

MID
ダイナミックレンジを多少圧縮します。

MAX
ダイナミックレンジを最大に圧縮します。

6
設定を終了する。
ディスプレイが下記の状態になります。

Srr Set End ---

ENTERボタンまたはMULTI JOGをもう一度押すと、Surround Setが終了し、次ページの「Rename」に進みます。

次の設定項目に進む前に設定内容を変更するには
手順1から設定をやり直してください。

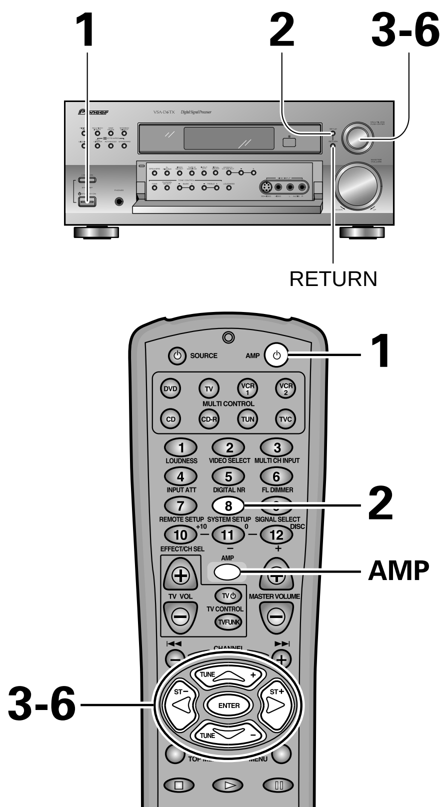
Rename

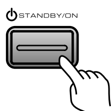
Rename(ファンクション表示の設定)

Renameをすることにより、ディスプレイに表示されるファンクション名を変更することができます。例えばDVD/LDの入力端子にDVRを接続したとき、ディスプレイ表示はDVD/LDですが再生しているのはDVRということになります。このようなときに、ディスプレイ表示をDVD/LDからDVRに変更できる便利な機能です。各ファンクションごとに接続された機器やメーカー名などを入力すれば、どこのファンクションにどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

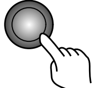
37ページD-Range Contからこの項目に進んだ場合は、下の手順4にお進みください。この項目から設定を始める場合は、手順1から順にお進みください。

設定はリモコン、本体のどちらでもできますが、この操作は本体のマルチジョグを使用した方が容易なため、下記の手順は本体での操作を中心に説明します。



1 

本機の電源を入れる。

2 

SYSTEM SETUPにする。

ディスプレイが下記の状態になります。

Assign Set

再度SYSTEM SETUPボタンを押すと、「Assign Set」が消え、もとのディスプレイに戻ります。
リモコンで操作する場合は、AMPボタンを押してからSYSTEM SETUPボタンを押してください。

3 左右に回す

Rename(ファンクション表示の設定)を選択する。

ディスプレイを下記の状態にします。

Rename

4 マルチジョグを押す

Rename(ファンクション表示の設定)にする。

ディスプレイが下記の状態になります。

DVD/LD

メモ
- 選択方法がわからない場合は、「サラウンドに関する設定」(25～26ページ)をお読みください。

5 左右に回す

変更したい名前のファンクションを選択する。

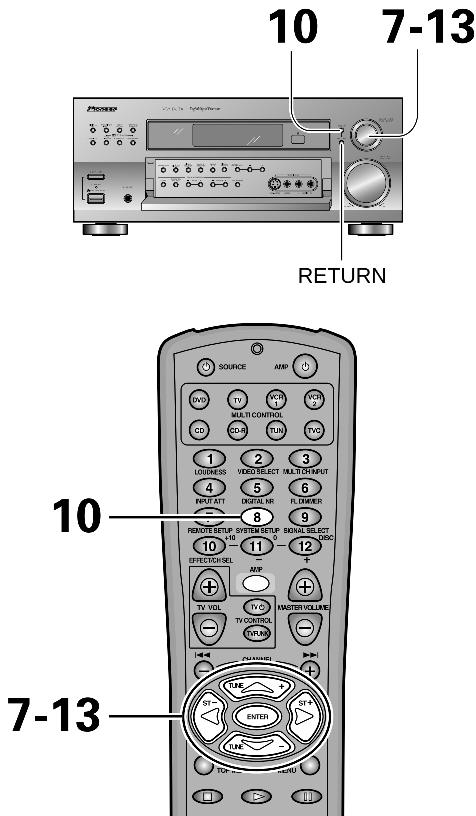
例えばDVD/LDをDVRに変更する場合は、DVD/LDを選択します。

6 マルチジョグを押す

変更したい名前のファンクションを決定する。

ディスプレイが下記の状態になります。

DVD/LD



7 入力する文字を選択する。

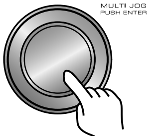
左右に回す

MULTI JOG
PUSH ENTER

入力できる文字は以下のとおりです。MULTI JOGの場合は右に回すと、リモコンの▲/▼ボタンの場合は▲　ボタンを押すと順に選択できます。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
!"#%&'()*+,–./:;<=>?_□(スペース)

8 選択した文字を決定する。



マルチジョグを押す

ディスプレイが下記の状態になります。
文字を間違えて入力してしまった場合は、RETURNボタンまたは◄ ボタンを押すと1 つ前に戻ります。

DVD/LD

9 手順7〜8を繰り返してファンクション名を入力する。

DVD

10 ファンクション名を決定する。

Ⓐと Ⓑ、2通りの決定のしかたがあります。Ⓐか Ⓑのどちらか一方の操作を行ってください。

Ⓐ SETUP

ファンクション名を決定してSYSTEM SETUPを終了する場合。
ディスプレイはもとに戻ります。

Ⓑ MULTI JOG PUSH ENTER

点滅表示が消えるまで数回押す

ファンクション名を決定して手順5へ戻る場合。
ほかにも名前を変更したいファンクションがあるときは手順5へ戻り、名前を変更したいファンクションを選択する。名前を変更したいファンクションがない場合は手順11へ進む。

11 Rename Endを選択する。

左に回す

ディスプレイを下記の状態にします。

Rename End

12 Rename(ファンクション表示の設定)を終了する。

マルチジョグを押す

ディスプレイが下記の状態になります。

Setup End

13 Setup(システムセットアップ)を終了する。

マルチジョグを押す

ディスプレイはもとに戻ります。

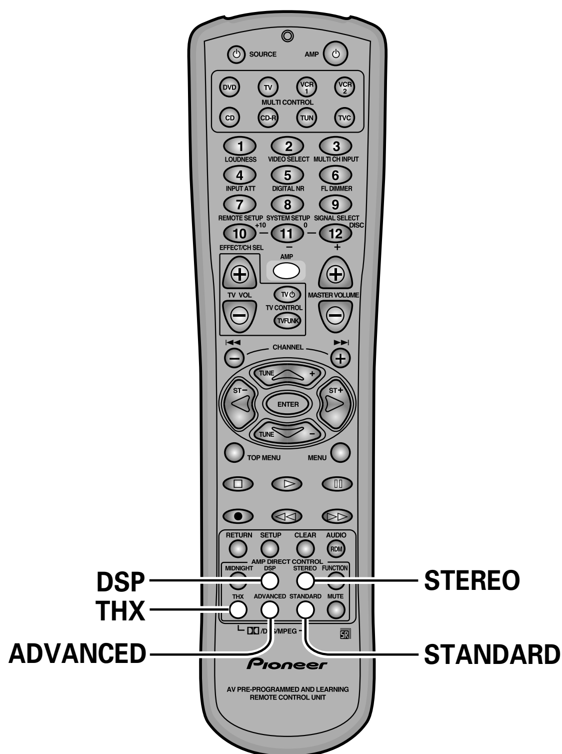
4
セットアップ

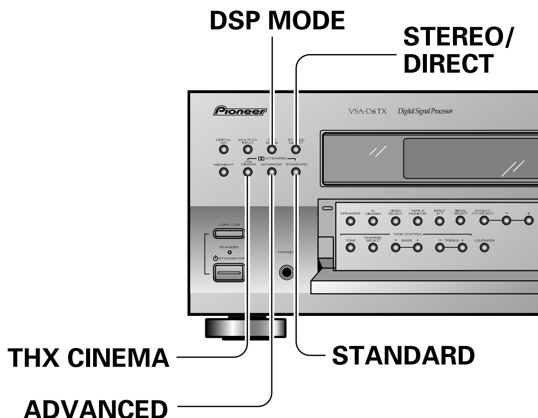
本機の操作

サウンドモードの選択

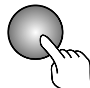
各種サウンドモードで再生を始める前に、２５〜３９ページの「セットアップ」で、最適なサラウンド設定を行ってください。とくにドルビーデジタルやＤＴＳ対応の音楽ソフトを再生する場合は、サラウンドの設定が重要な役割を果たします。サウンドモードの種類と効果については、４１〜４２ページをご覧ください。

サウンドモードを選択する

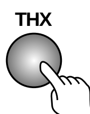




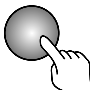
1 **サウンドモードを選択する。**



STANDARDモードにする。

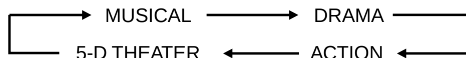


HOME THX CINEMAモードにする。



ADVANCED THEATERモードにする。

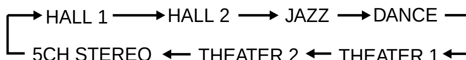
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。





DSPモードにする。

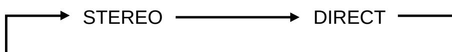
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。





STEREO（ステレオ）モードにする。

ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。





- スピーカーB システムを選択すると強制的にステレオ再生になります（２２ページ）。

サウンドモードの種類と効果

本機では、以下のような5 タイプのサウンドモードを選択できます。再生する映画や音楽ソフトに合わせて最適なモードを選択してください。サウンドモードの選択方法については、「サウンドモードの選択」(４０ ページ)をお読みください。

STANDARDモード

ドルビーデジタルやＤＴＳ、ＭＰＥＧ対応の音声はそのまま忠実にデコードし、2チャンネル音声やドルビーサラウンドソースはドルビープロロジック処理を行います。このモードは、再生されたソフトの音声フォーマットを自動検出してデコード処理方式を切り換えます。

HOME THX CINEMAモード

ＴＨＸは、映画のサウンドトラックをリアルに再現するためにルーカスフィルム社が開発したシステムです。ＳＴＡＮＤＡＲＤモードと同様に音声フォーマットを自動検出し、あらゆるソフトに効果的ですが、ドルビーデジタルやドルビーサラウンド、ＤＴＳ、ＭＰＥＧ対応の映画ソフトの再生には特に威力を発揮します。

ADVANCED THEATERモード

このモードは、映画のサウンドトラックやその他のあらゆるＡＶソフトを最適な音声で楽しむためのオリジナルモードです。ＳＴＡＮＤＡＲＤモードと同様に音声フォーマットを自動検出、デコード処理を行うとともに、ＤＳＰ(デジタルシグナルプロセッシング)による4 種類の効果が用意されています。再生する映画または音楽ソフトに合わせてお楽しみください。

- **MUSICAL**
  ほとんど球に近い理想の空間での反射音を再現します。宇宙空間に漂う未来のコンサートホールのイメージです。音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生に効果的です。
- **DRAMA(CINEMA)**
  リアスピーカーからの音が一体となって、1 つの大きなスピーカーのように響くイメージで、落ち着いた雰囲気で映画を楽しんでいただけます。幅広い範囲でサラウンド効果が楽しめ、直接音もしっかりと響きます。ストーリー性重視の映画の再生に効果的です。
- **ACTION**
  包み込むような空間での反射音を再現します。大きい音がしっかり定位し、躍動感、スピード感が楽しめます。アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を、あますところなく楽しんでいただけます。アクション系の映画の再生に効果的です。
- **5-D THEATER**
  2 チャンネルで収録された音声を、5 チャンネルのサラウンド効果で再生できます。
  

  マークのついたソフトを再生するときに、ドルビーデジタルに近い効果を得ることができます。

メモ **Dialog Normalization(ダイアログ ノーマライゼーション)について**

ドルビーデジタルのソフトを再生するとDialog Normalization機能(ドルビーデジタルの標準機能)が自動的に動作します。これは、平均的音量レベルが異なる様々なソフトでも、一定の音量で再生されるように自動調整する機能です。

- ソフトによってはこの機能により、ＴＨＸ の標準レベルとの差が生じる場合がありますが、この場合はディスプレイに「Dial. Norm. ＊＊dB」と表示されます。
  例えば「＋4dB」と表示された場合、4dB音量を上げて自動調整していることを意味します。

ＤＳＰモード

ＤＳＰ（デジタルシグナルプロセッシング）モードは、標準のステレオ（2 チャンネル）ソフトやドルビーサラウンド対応ソフトを、最適な環境で楽しむためのモードです（５.１チャンネルなどのソースでも効果があります）。

- **HALL 1**
  大型のコンサートホールをシミュレートしています。クラシック系の音楽に適しています。反射音の遅延時間帯が長く、さらに残響音を加えることでコンサートホール特有の美しい響きと、オーケストラの迫力が楽しめます。
- **HALL 2**
  石（コンクリート製）のコンサートホールをシミュレートしています。残響音豊かな本格的コンサートホールの響きを楽しむことができます。クラシック音楽などで自然な広がりを感じていただけます。
- **JAZZ**
  一般的なジャズクラブをシミュレートしています。音の響きが強くなるのが特徴です。反射音のほとんどが１００ms以下で、目の前で演奏しているような迫力を楽しめます。
- **DANCE**
  ダンスフロアの床面が正方形をしているディスコをシミュレートしています。音の響きが強いのが特徴です。反射音の遅延時間はほとんどが５０ms以下で、迫力あるディスコサウンドが楽しめます。
- **THEATER 1**
  中型映画館（３００～５００席程度）をシュミレートしています。空間の広がり、残響音など映画館の音響効果を再現しています。
- **THEATER 2**
  ミニシアターのような小型の映画館をシュミレートしています。各チャンネルの定位感を損なわずに映画館の雰囲気が楽しめます。
- **5CH STEREO**
  標準のステレオ（2 チャンネル）音声を加工することなく、5 チャンネルにて再生しますので部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

ＳＴＥＲＥＯ（ステレオ）モード

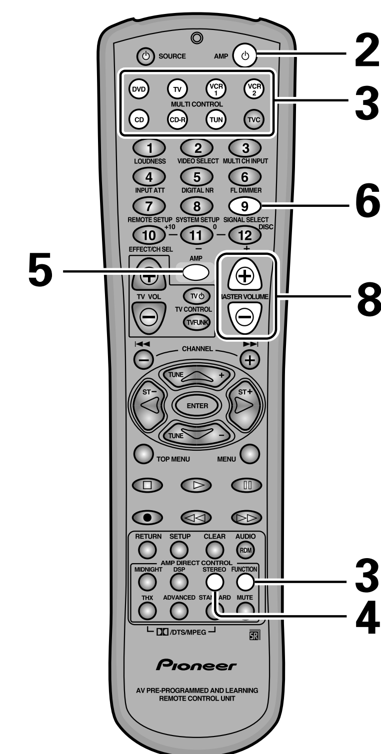
左右のフロントスピーカーからステレオ音声（2 チャンネル）で再生するモードです。
ドルビーデジタルやＤＴＳなどのソースは2チャンネルにダウンミックスして再生します。

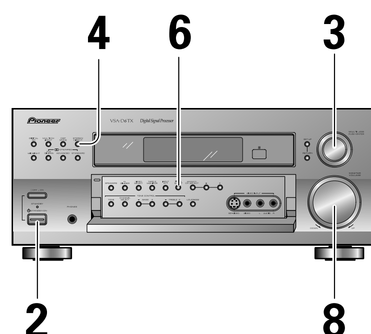
- **STEREO**
  「便利な音声再生用機能」（４６ページ）を追加して、お好みに合わせたステレオ再生をお楽しみいただけます。
- **DIRECT**
  トーンコントロールやチャンネルレベルなどを通さずに、原音を高品位にステレオ再生します。

操作を行う前に、必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。

ステレオ再生

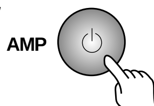
ステレオモード(2 チャンネル)で再生する方法について説明します。



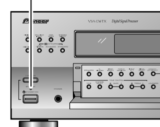


1　再生機器の電源を入れる。

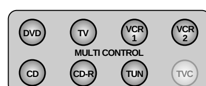
2　本機の電源を入れる。



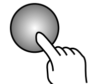
フロントパネルのSTANDBYインジケーターが消灯します。



3　再生機器を選択する。



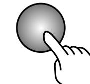
または



リモコンのFUNCTIONボタンまたはフロントパネルのMULTI JOGでも選択できます。
FUNCTIONボタンは押すたびに、MULTI JOGの場合は回すたびに以下のように切り換わります。

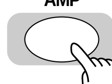
DVD/LD → TV/SAT → CD → CD-R/TAPE 1
VCR 2 ← VCR 1/DVR ← VIDEO ← TUNER

4　ステレオモードを選択する。



ディスプレイのSTEREOインジケーターが点灯します。

5　リモコンをアンプ操作モードにする。



6　再生する機器の入力信号を選ぶ。



「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(45ページ)をご覧ください。

7　手順1の再生機器の再生を開始する。

8　音量を調節する。





音声が再生されない場合は、SIGNAL SELECTボタンの入力信号の選択が正しくない可能性があります。再生機器に合せて正しい入力信号を選択してください。詳しくは、「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(45ページ)をご覧ください。

5

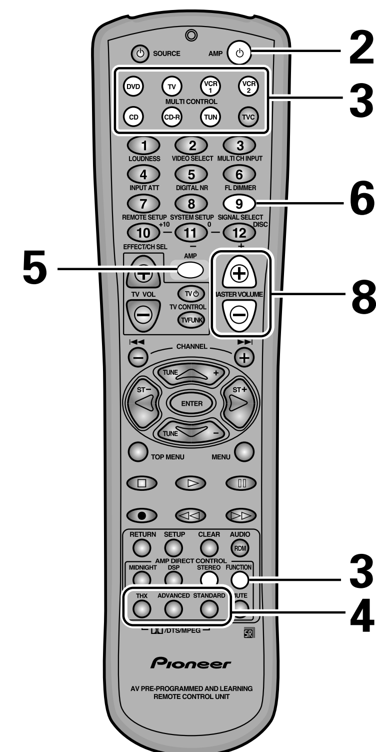
本機の操作

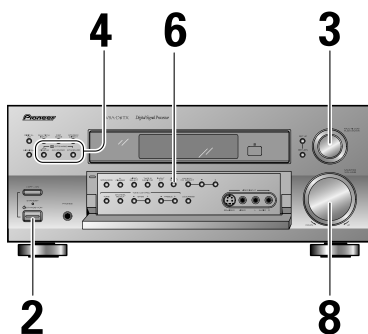
本機の操作

操作を行う前に、必ず本機の主電源ボタンをON（▁）にしてください。

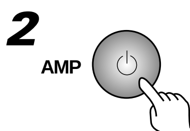
ドルビーデジタルやDTSまたはMPEG-2 AAC対応ソフトの再生

本機を使ってドルビーデジタルやDTSまたはMPEG-2 AACなどを再生する方法について説明します。





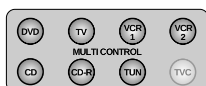
1 **再生機器の電源を入れる。**

2 

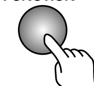
本機の電源を入れる。

フロントパネルのSTANDBYインジケーターが消灯します。



3 

または

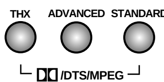


再生機器を選択する。

リモコンのFUNCTIONボタンまたはフロントパネルのMULTI JOGでも選択できます。

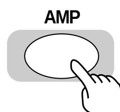
FUNCTIONボタンは押すたびに、MULTI JOGの場合は回すたびに以下のように切り換わります。

→ DVD/LD → TV/SAT → CD → CD-R/TAPE 1 →
VCR 2 ← VCR 1/DVR ← VIDEO ← TUNER ←

4 

お好みのサウンドモードを選択する。

詳しくは「サウンドモードの選択」（40 ページ）をご覧ください。

5 

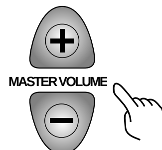
リモコンをアンプ操作モードにする。

6 

再生する機器の入力信号を選ぶ。

「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」（45ページ）をご覧ください。

7 **手順1の再生機器の再生を開始する。**

8 

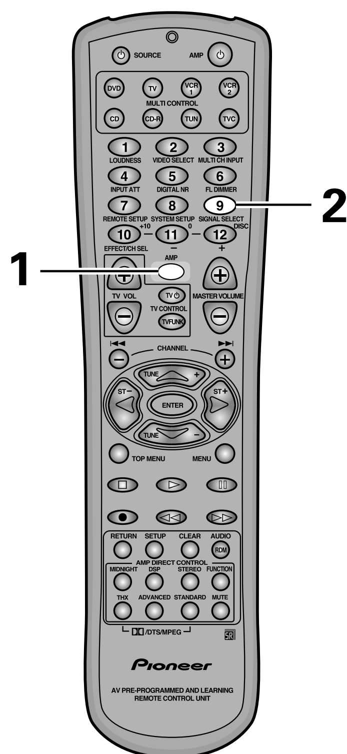
音量を調節する。

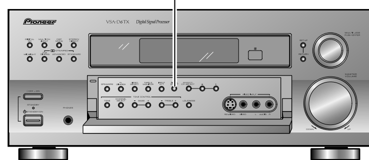


DTS音声で収録されているCDや音楽DVDのディスクと、映画ディスクでは同じ条件で再生したときの音の大きさが違います。映画ディスクではTHXやADVANCED THEATERモードにするとバランス良く聞こえます。CDや音楽DVDのディスクではSTANDARD、DIRECT、STEREO、DSPモードにするとバランス良く聞こえます。

ANALOG/DIGITAL信号の切り換え

アナログとデジタルの入力信号を、リモコンまたはフロントパネルのSIGNAL SELECTボタンで切り換える方法について説明します。







1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

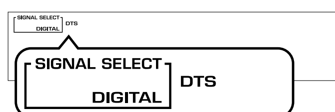
2 

再生したい入力信号を選択する。

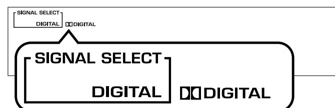
SIGNAL SELECTボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。自動的に入力信号を選択するAUTOをおすすめします。



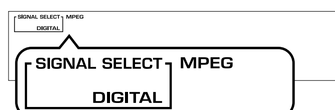
SIGNAL SELECTにおいてAUTOまたはDIGITALを選択している場合、ドルビーデジタルの信号が入力されるとフロントパネルディスプレイの🅳🅳DIGITALインジケーターが点灯します。また、DTS信号が入力されるとDTSインジケーターが、MPEG信号が入力されるとMPEGインジケーター点灯します。



DTS信号が入力されているとき



ドルビーデジタル信号が入力されているとき



MPEG信号が入力されているとき

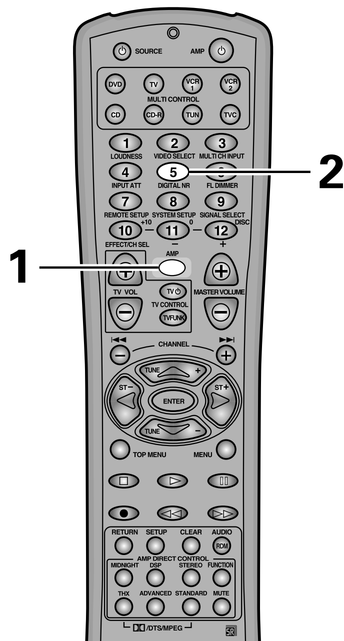
メモ
- 4つのデジタル入力端子のいずれにも割り当てられていないファンクションについては、SIGNAL SELECTは、ANALOGに固定されています。
- 入力信号の設定は各ファンクションごとに設定することができます。
- カラオケマイクからの音声信号、およびアナログ信号のみ収録されているLD の音声はデジタル出力からは出力されません。必ずSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM(32kHz、44kHz、48kHzおよび96kHz)、DTS、MPEG-2 AACのデジタル信号に対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できないことがありますので、その場合はアナログ接続してSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。

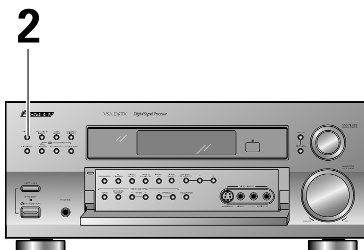
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態でDTS対応のソフトを再生すると、DTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し(15〜17ページ)、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります(DTS信号を出力しないなど)。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

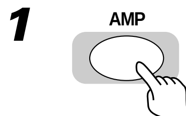
便利な音声再生用機能

ノイズを低減する（DIGITAL NR）

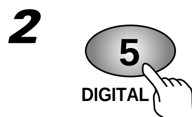
DIGITAL NRをONにすると、カセットテープやビデオテープなど、雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減することができます。





1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

DIGITAL NRをONにする。

ボタンを押すたび、DIGITAL NRがONまたはOFFに切り換わります。



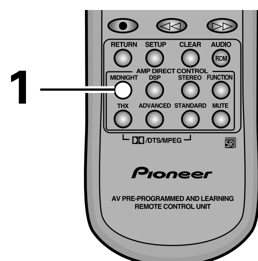
DIGITAL NRがONのとき

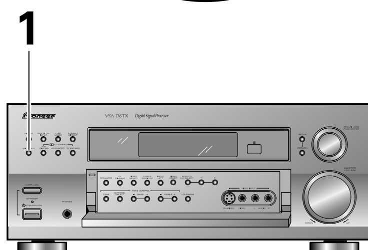


- 以下の場合は、DIGITAL NRをONにしてもノイズが低減されないことがあります。
  - 突然のノイズ
  - 極端に大きいノイズ
  - 高い周波数成分を非常に多く含む信号
  - もともとノイズの少ない録音状態の良い信号
- 各音源に対し、DIGITAL NRは以下のような改善効果があります。
  ステレオ再生時
  - アナログ .... 10〜18dB
  - デジタル .... 10〜15dB
  - AM/FMチューナー .... 10〜15dB
  DSP、ADVANCED、STANDARD、96kHz再生時
  .... 6〜10dB
- THX、MULTI CH INモードではDIGITAL NRモードは選択できません。
- 本機がDIRECT再生モードのときにDIGITAL NRをONにすると、自動的にステレオモードに切り換わります。

小さな音でもサラウンドサウンドを効果的に再生する（ミッドナイトリスニングモード）

音量を小さくすると、サラウンド効果が弱くなったり、微小な音やセリフなどが聴きにくくなることがあります。その場合は、MIDNIGHTボタンを押してミッドナイトリスニングモードをONにしてください。ボリュームレベルやソースに応じて様々な補正を行いますので小音量でも全体のバランスが良い状態で映画などをお楽しみいただけます。







1 

ミッドナイトリスニングモードにする。
ボタンを押すたび、ミッドナイトリスニングモードがONまたはOFFに切り換わります。

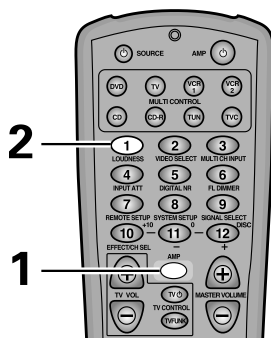


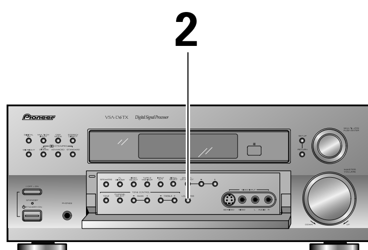
MIDNIGHTがONのとき

メモ
- 音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- THX、MULTI CH INでは、ミッドナイトリスニングモードは選択できません。
- 本機がDIRECT再生モードのときにミッドナイトリスニングモードをONにすると、自動的にステレオモードに切り換わります。

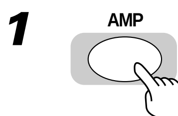
小さな音でも音声を聴き取りやすくする（ラウドネスモード）

ラウドネスモードを使用すると、低音域、高音域のレベルを補正し、小さな音でも音声を聴き取りやすくできます。







1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

ラウドネスモードをONにする。
ボタンを押すたびに、LOUDNESSがONまたはOFFに切り換わります。



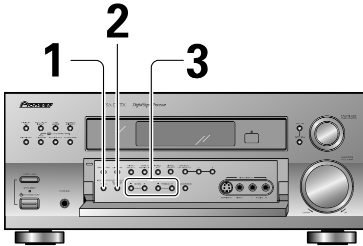
LOUDNESSがONのとき

メモ
- THX、MULTI CH INでは、ラウドネスモードは選択できません。
- 本機がDIRECT再生モードのときにラウドネスモードをONにすると、自動的にステレオモードに切り換わります。

本機の操作

低音、高音を調整する(トーンコントロール)

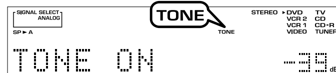
トーンコントロールをＯＮにすると、低音、高音がお好みによって調整できます。
ステレオモードのときはフロントスピーカーとサブウーファーのみ調整できます。サラウンドモード(ADVANCED、STANDARD、DSP)のときはフロント、センター、サラウンドスピーカーとサブウーファーを調整することができます。



1



トーンコントロールモードをONにする。
ボタンを押すたびにトーンコントロールモードがONまたはBYPASSに切り換わります。BYPASSに設定するとトーンコントロールは操作できません。

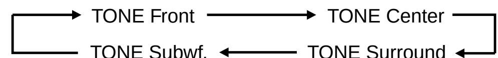


トーンコントロールがONのとき

2

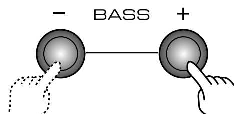


調整したいスピーカーを選択する。
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。

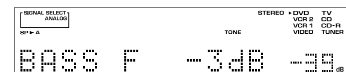


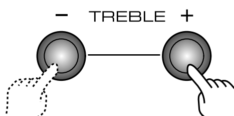
「TONE Subwf.」はサブウーファーを設定している場合のみ選択可能です。またサブウーファーはBASSのみを調整することができます

3 **好みのトーンに調整する。**

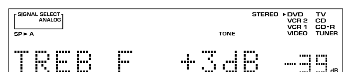


低音を調整する。





高音を調整する。



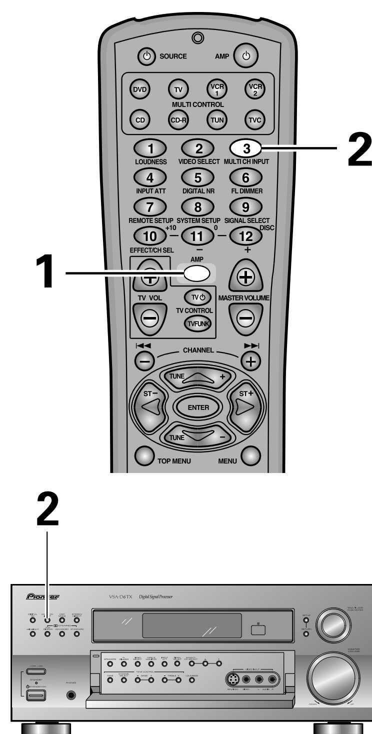
4 **他のスピーカーを調整する場合は、手順2 〜3 を繰り返してください。**



- トーンは、−6〜+6dBの範囲で調整できます。
- トーンコントロールはTHX 、MULTI CH INモードでは使用できません。
- 工場出荷時はTONE:BYPASSに設定されています

外部デコーダーの再生（マルチチャンネル入力）

外部デコーダーなどの5.1チャンネルアナログ出力付き機器を接続して、5.1チャンネルのサラウンドサウンド再生を楽しむことができます。

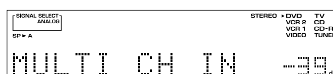


1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

マルチチャンネルインモードにする。
ボタンを押すたび、以前のモードとマルチチャンネル入力が切り換わります。

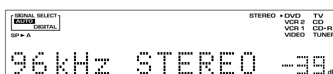




- マルチチャンネル入力信号にはＴＨＸやＤＳＰ等の効果を付加したり、SIGNAL SELECT、INPUT ATT、「便利な音声再生用機能」（46〜48ページ）を使用することはできません。
- MULTI CH INの設定がBYPASSモードのときは「Surround Set」(28〜37ページ)に関わりなく入力された信号をそのまま出力します(２７ページ)。但し、スピーカーやサブウーファーの有り無しの設定は有効となります。
- 各チャンネルのレベルを個別に調整したい場合は、２７ページの「マルチチャンネル入力の設定」でADJUSTモードに設定を変更してください。

96kHz/24ビットフォーマットディスクの再生

本機では、96kHz/24ビットのステレオフォーマットで収録されたDVDディスクを高音質で再生することができます。このタイプのＤＶＤディスクを再生すると、本機は自動的にこのフォーマットを検出し、最適な音質で再生します(ただし、SIGNAL SELECTでAUTOまたはDIGITALを選択しておく必要があります)。このとき本機のディスプレイは96kHz 信号であることを表示します。

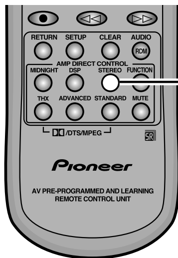


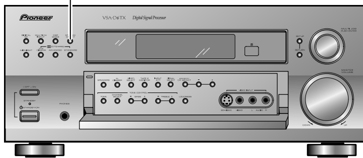


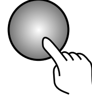
- 96kHz/24ビットフォーマットのディスクは、通常のディスクより大きな音量で再生されることがあります。
- DVDプレーヤーの機種の中には、96kHz/24ビットフォーマットのディスクを再生できないものがあります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 96kHz/24ビットフォーマットのディスクを再生中は、STANDARD、ADVANCED THEATER、THX CINEMA、およびDSPモードの選択はできませんが、「便利な音声再生用機能」（46〜48ページ）およびSTEREO、DIRECT再生モードは選択することができます。
- 96kHz/24ビット再生中でもMULTI CH IN とTAPE 2 MONITORの操作は可能です。
- 96kHz/24ビットのDVDディスクの他、96kHz/20ビットや16ビットで収録されたDATなどにも対応しています。

ダイレクト再生モード

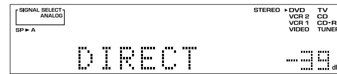
トーンコントロールやチャンネルレベルなどを通さずに、原音を高品位にステレオ再生します。





1 

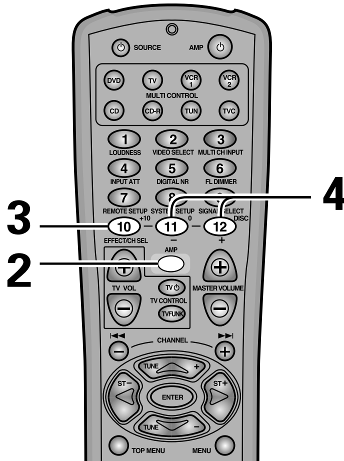
ダイレクト再生モードにする。
ボタンを押すたび、ステレオ再生モードとダイレクト再生モードが切り換わります。このモードは2チャンネルソースを忠実に再生します。

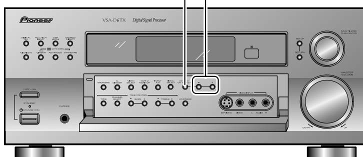




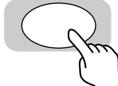
「便利な音声再生用機能」(46～48ページ)と併せてDIRECT再生モード使うことはできません。

ADVANCED THEATERモードまたはDSPモード の効果を調整する





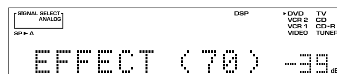
1 **サウンドモードをADVANCEDTHEATERまたはDSPにする。**
詳しくは40ページをご覧ください。

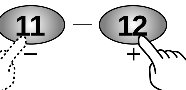
2 

リモコンをアンプ操作モードにする。

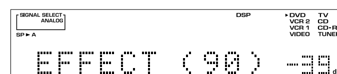
3 

エフェクトレベルの設定モードにする。
フロントパネルディスプレイに「EFFECT (70)」が出るまでボタンを押します。



4 

エフェクトレベルの効果を調整する。
エフェクトレベルは、１０～９０の範囲で調整することができます。

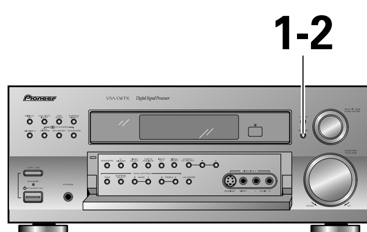




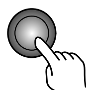
• 工場出荷時は、７０に設定されています。

デュアルモノの設定

デジタル入力がドルビーデジタルのデュアルモノ（フォーマット）信号の時、どちらのチャンネルをどこのスピーカーから再生させるかを設定することができます。（例：音声多重放送の2　カ国語音声をドルビーデジタルで収録したDVRソフトを楽しむとき）

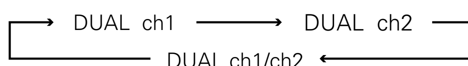


1



デュアルモノの設定モードにする。

ボタンを押し続けることによって以下のように切り換わります。

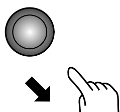


ch1: デュアルモノのチャンネル1の音声のみを再生します。

ch2: デュアルモノのチャンネル2の音声のみを再生します。

ch1/ch2: デュアルモノのチャンネル1の音声をフロント左スピーカーより、デュアルモノのチャンネル2の音声をフロント右スピーカーより再生します。

2



再生するスピーカーと音声チャンネルを決定する。

選んだ設定を数秒間表示した後、もとの表示に戻ります。

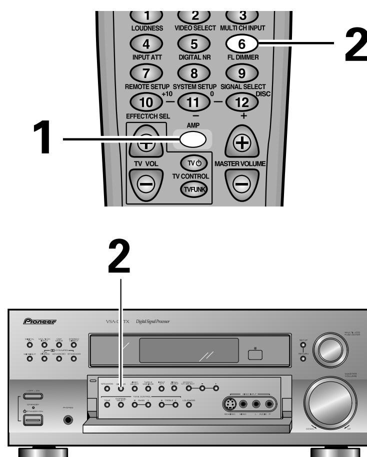




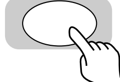
- デュアルモノの設定は、ドルビーデジタルやMPEG-2 AACの1＋1 デュアルモノラル信号で記録されているソースにのみ有効です。
- デュアルモノで再生中、インジケーターは、ch1の場合[L]が点灯します。ch2の場合は[R]が点灯し、ch1/ch2の場合は[L]と[R]が点灯します。
- 工場出荷時の設定はDUAL ch1に設定されています。

ディスプレイの明るさを調整する

フロントパネルのFL DIMMERボタンを使って、フロントパネルディスプレイの明るさを調整できます。



1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2

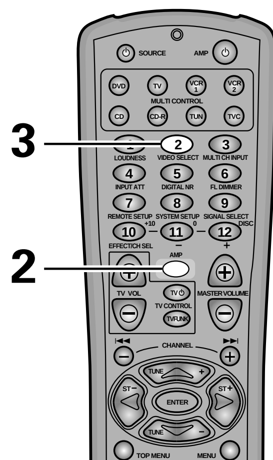


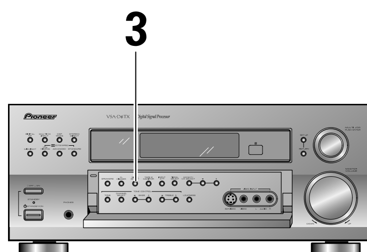
好みの明るさに調整する。

ディスプレイの明るさを4　段階調整できます。ボタンを押すたびに明るさが切り換わり、一巡すると普通の明るさに戻ります。

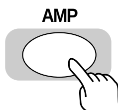
ビデオセレクト

ビデオセレクト機能は、お好みの音楽ソースを聞きながら別のファンクションのビデオ映像などを同時に見ることができる機能です。音楽ソースの再生またはビデオ機器の再生は4 3〜4 4ページをご覧ください。





1 **音楽ソースを再生する。**
詳しくは4 3〜4 4ページをご覧ください。

2


リモコンをアンプ操作モードにする。

3


映像のみを再生したいビデオ入力を選択する。
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。



ファンクションがCD、CD-R、TUNERのときのみ、OFFを選択することができます。

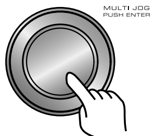
4 **手順3 で選択したビデオ入力機器を再生する。**

メモ ビデオセレクト機能は、本機の電源を切ったり、ファンクションを切り換えると、元の設定に戻ります。

ディスプレイを切り換える

本機のフロントパネルディスプレイは、ファンクション表示とサウンドモード表示の2 通りの表示パターンがあります。表示の切り換えはMULTI JOGを押すことで簡単に切り換えることができます。



1


フロントパネルディスプレイ表示を切り換える。
MULTI JOGを押すたびにファンクション表示とサウンドモード表示が切り換わります。

他機器の操作

他機器を操作するためのリモコン設定

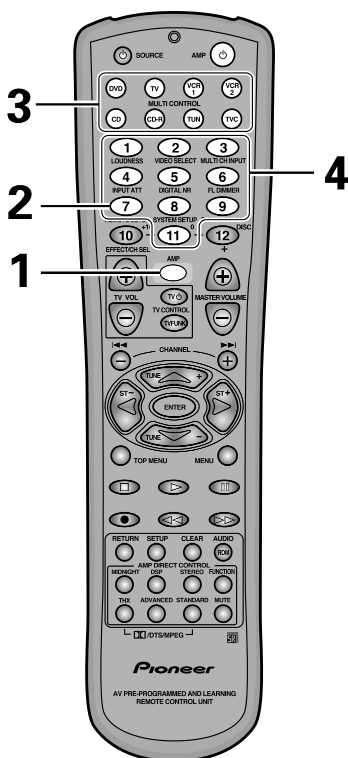
本機のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(DVD、ビデオデッキ、テレビ、LD、CDプレーヤーなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードが69ページのメーカーコードリストに記載されている場合は、該当するコードを使って簡単に本機のリモコンで操作できるようになります。リストに記載されていない場合、またはリモコンに操作機能を追加したい場合でも、その機器に付属のリモコンから直接登録(学習)することが可能です。

Preset Recallセットアップモード(プリセットコードを呼び出す)

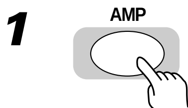
ここでは、本機のリモコンのMULTI CONTROLボタンに、操作したい他機器のプリセットコードを割り当てます。プリセットコードを割り当てておくと、本機のリモコンを使って他機器を操作できるようになります。



- 対応機器の種類とメーカーについては「メーカーコードリスト」(69 ページ)をご覧ください。

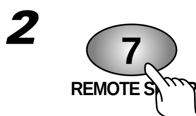


1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2



REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続ける。

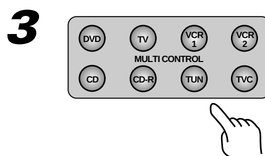
Preset Recallセットアップモードにする。

リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅します。

Preset Recallセットアップモードを終了するには

AMPボタンを押します。

3



本機のリモコンで操作したい機器に対応するMULTI CONTROLボタンを選択する。

ボタンに対応できる製品のカテゴリーは以下のとおりです。

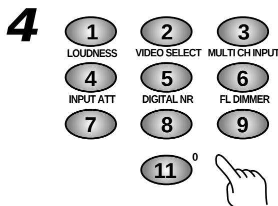
DVD VCR1 VCR2 ：DVD/LD、DVD-R、VCR

TV TVC ：TV、CATV

CD CD-R ：CD、CD-R、TAPE、MD、DAT

TUN ：TUNER

4



「0」を入力するときは 11 を押します。

操作したい機器のメーカーコード(4 桁)を入力する。

4桁入力後にリモコンの上部にあるLEDランプが2 回点滅すれば正しく設定されたことになります。リモコンの上部にあるL E D ランプが1 回長く点滅したときは正しく設定されていません。メーカーによっては複数のコードがありますので、別のコードを入力し直してみてください。

手順1 ～4 を繰り返して、必要なコードナンバーを割り当ててください。

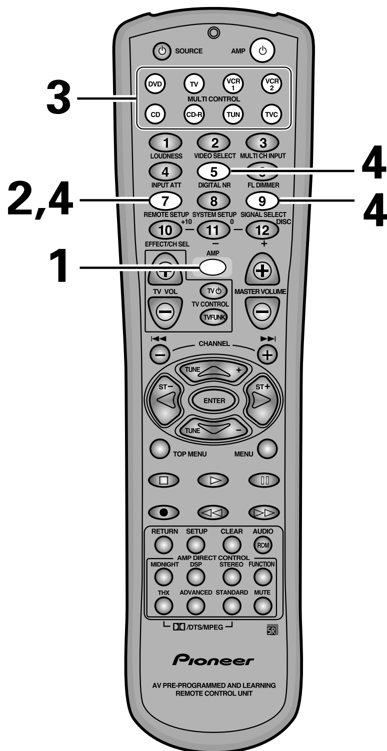
最後のコードまで試しても正しく設定できない場合は、「Learningセットアップモード」(5 4 ページ)でこの機器を操作できるようプログラムします。



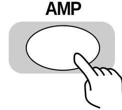
手順3、4のボタン入力は時間をかけないで入力してください。ボタンを押す間隔が10秒を超えると自動的に解除されます。

Learningセットアップモード（他機器のリモコン操作を本機のリモコンに登録する）

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードがメーカーコードリスト（69ページ参照）に見当たらない場合は、以下の手順で他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに登録することができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録（学習）することができます。

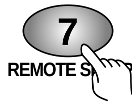


1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2

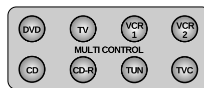


REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続ける。

リモートセットアップモードにする。
リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅します。

リモートセットアップモードを終了するには
AMPボタンを押します。

3



本機のリモコンで操作したい機器に対応するMULTI CONTROLボタンを選択する。

4

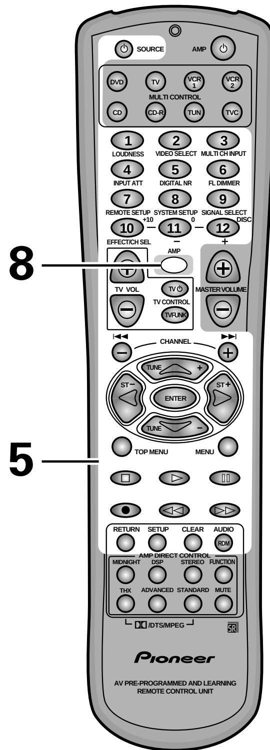




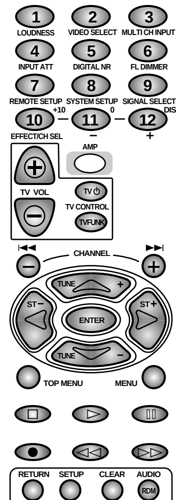


Learningセットアップモードにする。
リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅します。

Learningセットアップモードを終了するには
REMOTE SETUPボタンを押します。



5



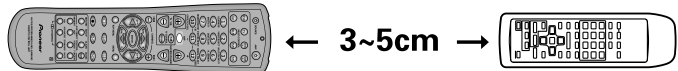
登録したい操作ボタンを選択する。

リモコンの上部にあるLEDランプが素早く点滅します。

TV⏻、TV FUNC、TV VOL +/−ボタンに登録できるのは、TV CONTROL（テレビ操作）だけです。

6 **本機のリモコンに他機器リモコンの登録したい操作ボタンを登録する。（以下の①〜②を行う）**

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向ける。



② LEDランプが素早く点滅している間に、登録したい他メーカーのリモコンのボタンを押す。本機リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅したときは正しく登録されたことになります。

7 **登録を続ける場合は、以下の手順を行います。**

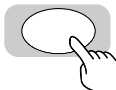
同じリモコンから別の操作を追加登録するには

手順5、6を繰り返します。

別のリモコンから操作を登録するには

手順3〜6を繰り返します。

8



Learningセットアップモードを終了する。

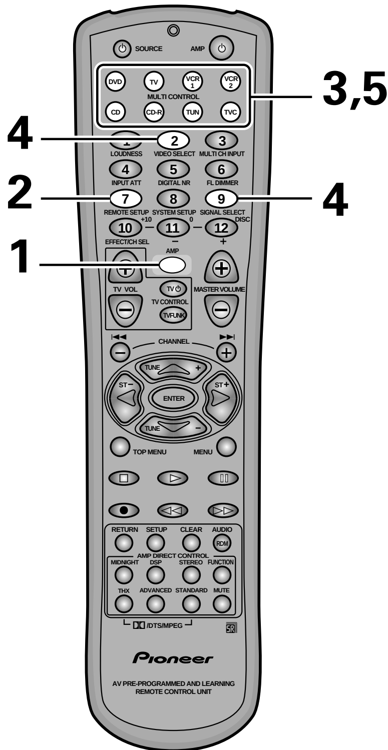
リモコンは通常動作に戻ります。



リモコンによっては、操作を登録できないものもあります。また、手順6でリモコン同士の距離を変えてみることで、登録できる場合もあります。

マルチコントロールボタンに異なるカテゴリーのプリセットコードを設定する

マルチコントロールボタンに異なるファンクションの操作を設定することができます。例えばＣＤ－Ｒ ボタンにＤＶＤのプリセットを設定することができます。ＣＤ-ＲボタンでＤＶＤの操作をしたいときに便利な機能です。



1 **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **リモートセットアップモードにする。**

リモコンの上部にあるＬＥＤランプが２回点滅します。

REMOTE SETUP ボタンを３秒間押し続ける。

リモートセットアップモードを終了するには

ＡＭＰボタンを押します。

3 **設定を変更したいマルチコントロールボタンを選択する。**

例えばＤＶＤボタンを押します。

4 **マルチコントロールボタンの設定モードにする。**

リモコンの上部にあるＬＥＤランプが２回点滅します。

9 → 9 → 2

5 **手順3で選んだボタンに設定するマルチコントロールボタンを選択する。**

リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅します。

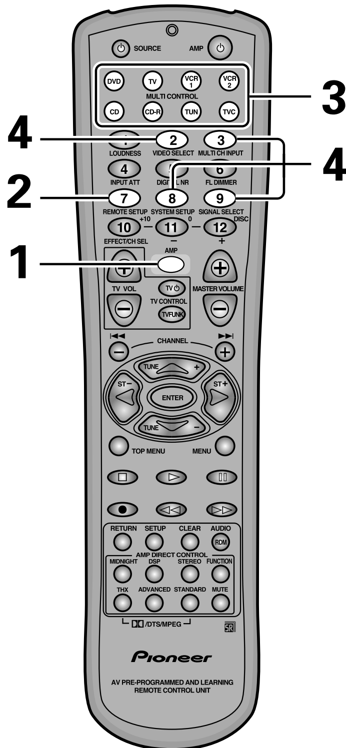
例えばＣD-Ｒボタンを押します。

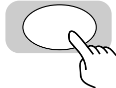
これで、ＣD-ＲボタンでＤＶＤの操作をすることができます。

メモ　プリセットコードを呼び出したマルチコントロールボタンで上記の設定をした場合は、プリセットコードは初期値に戻ってしまいます。このときは再度プリセットしてください。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTICONTROLボタンを押したときに、本機の入力セレクターを切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力セレクターは切り換わらず、操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続されている機器と、直接テレビに接続されているため本機の入力切換動作が必要ない機器と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてオンになっています。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

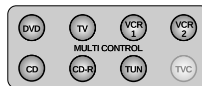
REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続ける。

ダイレクトファンクションセットアップモードにする。

リモコンの上部にあるLEDランプが2回点滅します。

ダイレクトファンクションセットアップモードを終了するには

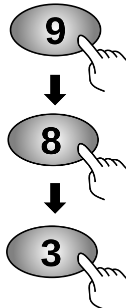
AMPボタンを押します。

3 

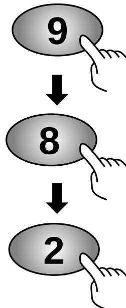
設定する機器のMULTI CONTROLボタンを選択する。

4 **ダイレクトファンクションのON、OFFを設定する。**

ダイレクトファンクションOFF



ダイレクトファンクションON

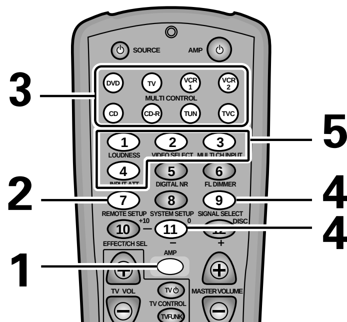


ダイレクトファンクションをOFFに設定するときは、9 ➡ 8 ➡ 3 ボタンを順に押してください。
ダイレクトファンクションをON に設定するときは、9 ➡ 8 ➡ 2 ボタンを順に押してください。
リモコンの上部にあるLEDランプが2 回点滅すれば正しく設定されたことになります。

5 **続けてその他の機器の設定を行う場合は、手順1 〜4 を繰り返す。**

プリセットコードをチェックする

マルチコントロールボタンに設定されたプリセットコードをＬＥＤ ランプの点滅する回数で確認することができます。



1 リモコンをアンプ操作モードにする。

2 リモートセットアップモードにする。

リモコンの上部にあるＬＥＤランプが2回点滅します。

REMOTE SETUP ボタンを3秒間押し続ける。

リモートセットアップモードを終了するには

ＡＭＰボタンを押します。

3 プリセットコードをチェックしたいマルチコントロールボタンを選択する。

例えばＶＣＲ２ボタンを押します。

4 プリセットコードチェックモードにする。

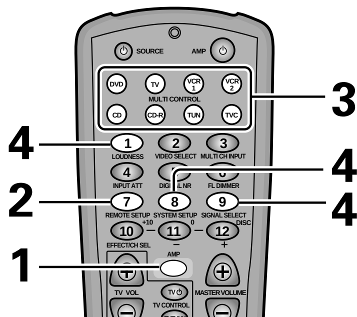
リモコンの上部にあるＬＥＤランプが2 回点滅します。
例えば手順3　で選んだマルチコントロールボタンに１ ３ ２ ９ というプリセットコードが設定されているとします。

5 プリセットコードをチェックする。

1ボタンを押すと4桁のプリセットコードの一番左の数字の数だけＬＥＤランプが点滅します。手順4 の例の場合ですと、1回点滅します。同じように2ボタンは左から２番目、３ボタンは左から3 番目、４ボタンは一番右の数字の数だけ点滅します。点滅する回数を確認してプリセットコードをチェックすることができます。

リモコンの設定解除

本機のリモコンのプリセット設定などをすべて解除する方法について説明します。



1 リモコンをアンプ操作モードにする。

2 リモートセットアップモードにする。

リモコンの上部にあるＬＥＤランプが2回点滅します。

REMOTE SETUP ボタンを3秒間押し続ける。

リモートセットアップモードを終了するには

ＡＭＰボタンを押します。

3 設定を解除したいマルチコントロールボタンを選択する。

4 設定を解除する。

9 ➡ 8 ➡ 1

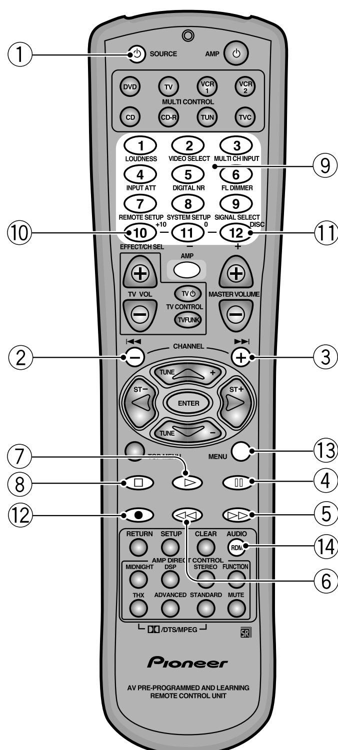
LEDランプが4回点滅し、設定は解除されます。

他機器のリモコン操作

CD/CD-R/MD/VCR/LDプレーヤーをリモコン操作する



- 下記のリモコン操作を行うには、あらかじめCD/CD-R/MD/VCR/LDプレーヤーのメーカーコードを呼び出す必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコンの設定」（53～55ページ）をご覧ください）。
- CD/CD-R/MD/VCR/LDプレーヤーの詳しい機能については、それぞれのプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
  実際に操作を始める前に、MULTI CONTROLボタンを押してリモコンをそれぞれのプレーヤー操作モードに設定してください。



① **⏻SOURCE**
プレーヤーの電源をON/OFFします。

② **⏮**
再生しているトラックの頭に戻ります。繰り返し押すと、前のトラックの頭に戻ります。

③ **⏭**
次のトラックの頭に進みます。繰り返し押すと、さらに次のトラックの頭に進みます。

④ **⏸**
再生を一時停止します。

⑤ **▶▶**
押している間、早送りをします。

⑥ **◀◀**
押している間、早戻しをします。

⑦ **▶**
再生を開始します。

⑧ **■**
再生を停止します。

⑨ **数字ボタン**
トラックを番号で選択するとき押します。

⑩ **+10**
10以上のトラック番号を選択するとき押します。

⑪ **DISC**
LDの再生面をAまたはBにします（LDのみ）。

⑫ **●**
録音（CD-R/MD）、録画（VCR）を開始します。

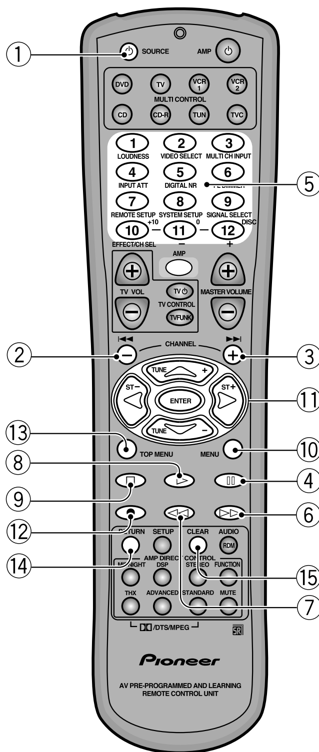
⑬ **MENU**
DVDに登録されている各種メニューを表示します。

⑭ **AUDIO(RDM)**
CD/CD-R/MDの場合はランダムモードにします。

DVD/DVRプレーヤーをリモコン操作する



- 下記のリモコン操作を行うには、あらかじめＤＶＤまたはＤＶＲプレーヤーのメーカーコードを呼び出す必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコンの設定」（５３～５５ページ）をご覧ください）。
- ＤＶＤおよびＤＶＲプレーヤーの詳しい機能については、ＤＶＤおよびＤＶＲプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
  実際に操作を始める前に、ＭＵＬＴＩ　ＣＯＮＴＲＯＬボタンを押してリモコンをそれぞれのプレーヤー操作モードに設定してください。



① ⏻SOURCE
プレーヤーの電源をON/OFFします。

② |◀◀
再生しているチャプターの頭に戻ります。繰り返し押すと、前のチャプターの頭に戻ります。

③ ▶▶|
次のチャプターの頭に進みます。繰り返し押すと、さらに次のチャプターの頭に進みます。

④ II
再生を一時停止します。

⑤ 数字ボタン
チャプターを番号で選択するとき押します。

⑥ ▶▶
押している間、早送りをします。

⑦ ◀◀
押している間、早戻しをします。

⑧ ▶
再生を開始します。

⑨ ■
再生や録画を停止します。

⑩ MENU
ＤＶＤ／ＤＶＲに登録されている各種メニューを表示します。

⑪ ▲/▼/◀/▶/ENTER
設定メニュー画面を操作するときに使います。

⑫ ●
録画を開始します。

⑬ TOP MENU
ＤＶＤ／ＤＶＲに登録されているタイトルメニューを表示します。

⑭ RETURN
ＤＶＤ／ＤＶＲに登録されている各種メニューを操作していて、操作などを戻すときに押します。

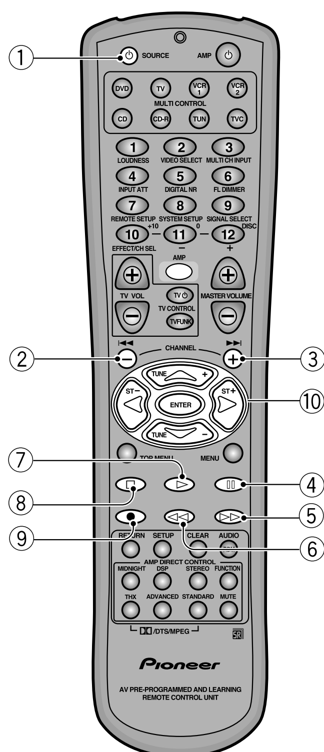
⑮ CLEAR
ＤＶＤ／ＤＶＲに登録されている各種メニューを操作していて、設定をクリアするときに押します。

テープデッキをリモコン操作する



- 下記のテープデッキの操作を行うには、あらかじめテープデッキのプリセットコードを呼び出す必要があります。また、機種によっては操作できないボタンもあります。そのときは、Learning（学習）させてください。詳しくは「他機器を操作するためのリモコンの設定」（53～55ページ）をご覧ください。
- テープデッキの詳しい機能については、テープデッキの取扱説明書をお読みください。

実際に操作を始める前に、MULTI CONTROLボタンを押してリモコンをテープデッキの操作モードに設定してください。



① ⏻**SOURCE**
プレーヤーの電源をON/OFFします。

② ⏮
テープのリバース再生を開始します（オートリバースデッキのみ）。

③ ⏭
テープのフォワード再生を開始します（オートリバースデッキのみ）。

④ ⏸
再生または録音を一時停止します。

⑤ ►►
押している間、早送りをします。

⑥ ◄◄
押している間、早戻しをします。

⑦ ►
再生または録音を開始します。

⑧ ■
再生または録音を停止します。

⑨ ●
録音一時停止状態になります。

⑩ **ダブルデッキ(DECK I)操作ボタン**
▲：（再生または録音を一時停止します。）
▼：（再生または録音を停止します。）
ENTER:（テープのフォワード再生を開始します。）
◄：（テープのリバース再生をします。）
►：（早送りをします。）

6

他機器の操作

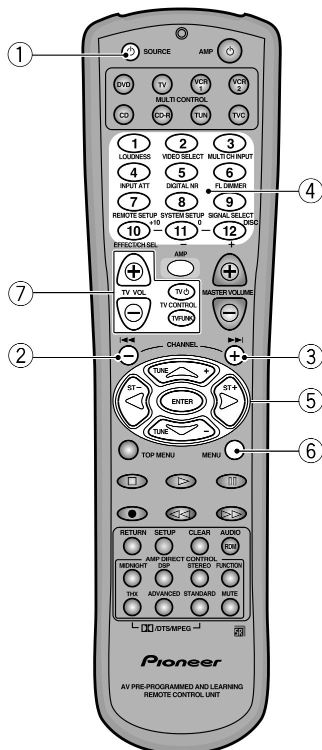
他機器の操作

テレビをリモコン操作する



- 下記のテレビ操作を行うには、あらかじめテレビのプリセットコードを呼び出す必要があります。また、機種によっては操作できないボタンもあります。そのときは、Learning（学習）させてください。詳しくは「他機器を操作するためのリモコンの設定」（53～55ページ）をご覧ください。
- テレビの詳しい機能については、テレビの取扱説明書をお読みください。

実際に操作を始める前に、MULTI CONTROLボタンを押してリモコンをテレビの操作モードに設定してください。



① **⏻SOURCE**
テレビの電源をON/OFFします。

② **CHANNEL (−)**
テレビのチャンネルを選択します。

③ **CHANNEL (+)**
テレビのチャンネルを選択します。

④ **数字ボタン**
テレビチャンネルを番号で選択するとき押します。

⑤ **▲/▼/◄/►/ENTER**
▲/▼/◄/► ： メニュー画面で項目の選択や調整に使用します。
ENTER：選択調整した項目を確定します。

⑥ **MENU**
テレビのメニュー画面を表示します。

⑦ **TV VOL +**
テレビの音量を調整します。

TV VOL −
テレビの音量を調整します。

TV ⏻
テレビの電源をON/OFFします。

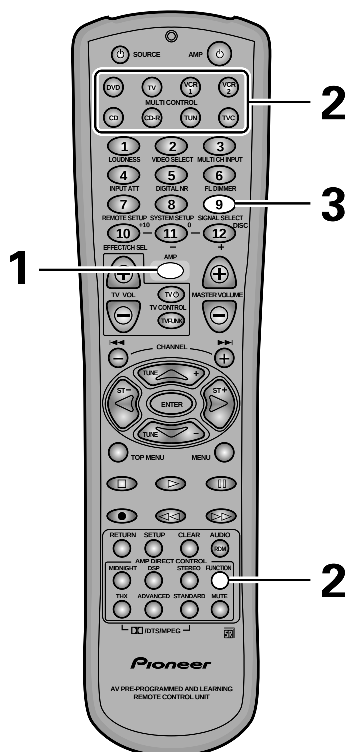
TV FUNC
テレビの入力を切り換えます。

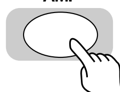
オーディオ機器からのアナログ録音

オーディオ機器からの音声を、CD-R/TAPE 1/MDまたはTAPE 2 MONITOR端子に接続されたテープデッキ、DAT、MDレコーダーまたはCDレコーダーに録音する方法について説明します。

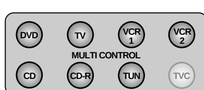


- 本機の音量、チャンネルレベル、「便利な音声再生用機能」(46～48ページ)、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- MULTI CH INモードの音は録音できません。

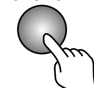


1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

または



再生機器を選択する。

リモコンのFUNCTIONボタンまたはフロントパネルのINPUT SELECTORでも選択できます。FUNCTIONボタンの場合はボタンを押すたびに、INPUT SELECTORの場合は右に回すたびに以下のように切り換わります。

DVD/LD → TV/SAT → CD → CD-R/TAPE 1 → TUNER → VIDEO → VCR 1/DVR → VCR 2 → (DVD/LD)

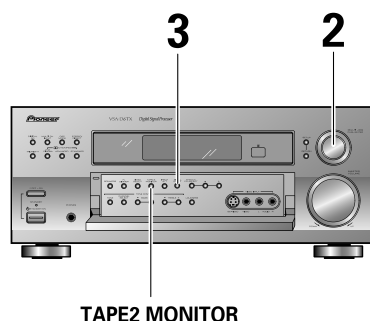
3 

再生する機器の入力信号をANALOGに設定する。

「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(45ページ)をご覧ください。

4 **録音機器の録音を開始する。**

5 **録音するソースを再生する。**



録音モニター（TAPE 2 MONITOR）

録音モニター付きのカセットデッキなどをTAPE 2 MONITOR端子に接続すると、録音しながら録音されている音声を聴くことができます。

ソース機器の再生音と録音されている音声を切り換えるには

TAPE 2 MONITORボタンを押します。録音中の音声が再生されているときは、TAPE 2インジケーターが点灯します。また、再生音に切り換えると、TAPE 2インジケーターは消灯します。

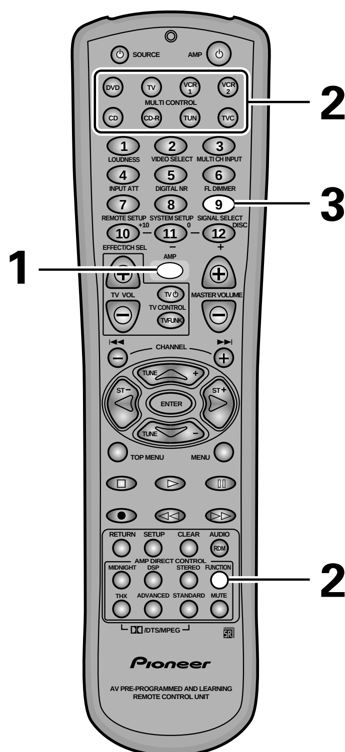
(注意)

TAPE2とともにTAPE1やVCRにも同時録音する場合、TAPE2 MONITORボタンを押してしまうと、TAPE2接続された機器の出力がTAPE1やVCRに録音されるので音が劣化します。

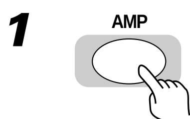
デジタル機器からのデジタル録音

ＣＤ、ＭＤの音声をデジタル録音する方法について説明します。デジタル録音をする場合は、本機の裏面にあるPCM/DD/DTS/MPEG OUTと表示されたデジタル出力端子にデジタル録音機器（MD、DAT、CDレコーダーなど）を接続してください。また、録音ソースのデジタル機器もデジタルIN端子1～4に接続してください（15～17ページをご覧ください）。

メモ　本機の音量、チャンネルレベル、「便利な音声再生用機能」（46～48ページ）、サラウンドの設定は録音信号には効果がありません。

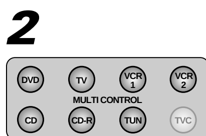


1

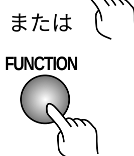


リモコンをアンプ操作モードにする。

2



または

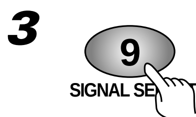


再生機器を選択する。

リモコンのFUNCTIONボタンまたはフロントパネルのINPUT SELECTORでも選択できます。FUNCTIONボタンの場合はボタンを押すたびに、INPUT SELECTORの場合は右に回すたびに以下のように切り換わります。

DVD/LD → TV/SAT → CD → CD-R/TAPE 1 → TUNER → VIDEO → VCR 1/DVR → VCR 2 → DVD/LD

3

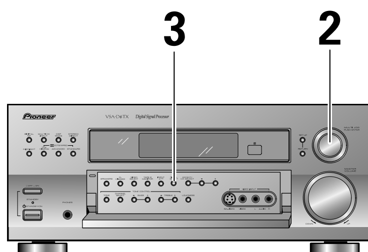


再生する機器の入力信号をDIGITALに設定する。

「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」（45ページ）をご覧ください。

4　**デジタル録音機器の録音を開始する。**

5　**録音するソースを再生する。**



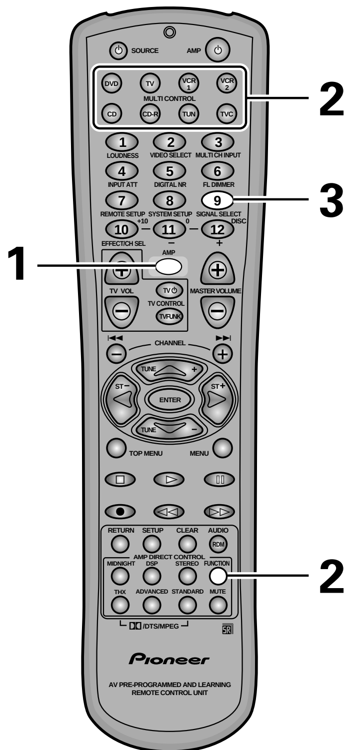
メモ　信号や録音機器によっては、コピーガードによりデジタル録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください。（63ページ）

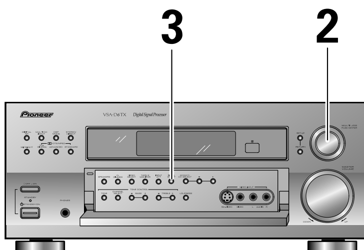
ビデオ機器からの録画

ビデオ機器からの画像、音声を、VCR 1/DVRまたはVCR 2端子に接続されたビデオデッキに録画する方法について説明します。VCR 1/DVRおよびVCR 2 OUTからの出力はアナログ信号になります。DTSやドルビーデジタルのサウンドトラックを録音することはできません。

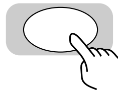


- 本機の音量、チャンネルレベル、「便利な音声再生用機能」(46～48ページ)、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- DIGITALを選択してデジタル信号および◻◻RF信号を録音することはできません。また、MULTI CH INモードの音を録音することもできません。



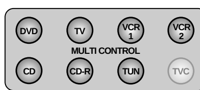


1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2



または

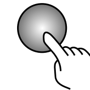
FUNCTION

再生機器を選択する。

リモコンのFUNCTIONボタンまたはフロントパネルのINPUT SELECTORでも選択できます。FUNCTIONボタンの場合はボタンを押すたびに、INPUT SELECTORの場合は右に回すたびに以下のように切り換わります。

→ DVD/LD → TV/SAT → CD → CD-R/TAPE 1
VCR 2 ← VCR 1/DVR ← VIDEO ← TUNER ←

3



再生する機器の入力信号をANALOGに設定する。

「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(45ページ)をご覧ください。

4 **ビデオデッキの録画を開始する。**

5 **録画するソースを再生する。**

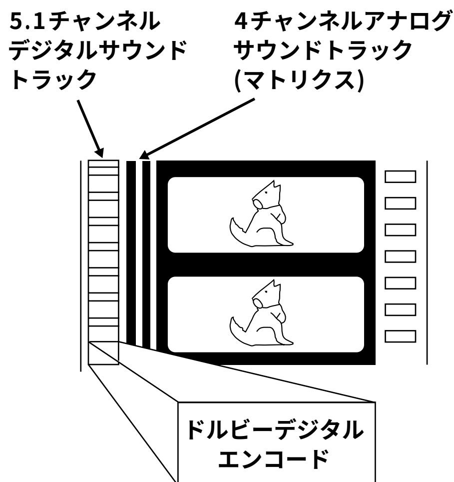


ＤＶＤの中にはコピーガードが設定されていて録画できないものがあります。

ドルビーデジタルについて



ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。
このシステムは、映画フィルムの中にアナログ音声をも記録できるため、アナログ音声システムのみの映画館でも支障なく上映できる方式となっています。

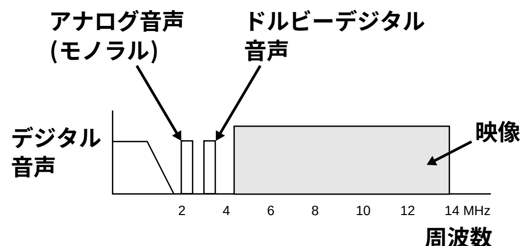


映画フィルムでのドルビーデジタル

コンパクトディスクやレーザーディスクのデジタル音声では、元のアナログ音声の波形をサンプリングするのに16ビットを使用、毎秒44,100回サンプリングします。しかし、この方法ではマルチチャンネルシステムには記録信号のデータ量が膨大なものとなってしまうため、全体のデータ量を圧縮するものとして、ドルビーデジタルが使われることとなります。
音声信号を表現する場合には、使用するビット数が少ない程、音質の低下はさけられません。ドルビーデジタルでは、音質を維持するために、人間の聴覚特性に基づいたマスキング技術とデジタルフィルタリング技術を使用して聴覚上の音質の低下を防いでいます。
現在もっとも普及している映画音声方式であり、ＤＶＤビデオの標準音声方式としても採用されており、デジタル時代の標準フォーマットとしても普及が進んでいます。

レーザーディスクフォーマット

レーザーディスクはすでに数多く販売されています。従ってレーザーディスクの中に異なるフォーマットの音声信号を記録することは、すでに存在するものと互換性が重要な事柄でした。レーザーディスクに記録されているドルビーデジタルでは、すでに販売されているディスクやプレーヤーとの互換性を維持するため、アナログ音声の片チャンネルを使って信号を記録することとしています。
下の図に示すように、ドルビーデジタルのディスクでは、デジタル音声は従来通りに再生できます。また、アナログ音声は、ドルビーデジタルの信号を入れていない方のチャンネルをモノラル音声にして、アナログ音声の再生も楽しめるようにしています。



ドルビープロロジックサラウンドとの比較

ドルビーデジタルは5．1 チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5 チャンネル(フロント左、右、センター、リア左、右)と、LFE(Low Frequency Effect)チャンネルを持っているためです。
LFEチャンネルは、場面に対応して低音を増強するために、他の5chとは独立して超低音を再生します。

DTSについて



DTSは、新しい劇場用の音声記録方式として1993年映画"ジュラシックパーク"より採用され、その高音質、かつ大迫力のサウンド効果は高い評価を得ています。
このシステムは、6チャンネルのデジタル音声を映画フィルム上ではなく、CD-ROMに収録し、フィルム(映像)と同期再生する方式です。そのため音声信号の圧縮率が低く、転送レートも高いので、より高音質のフォーマットとなります。また、フィルムに直接デジタル音声を記録する方式と異なり、パソコン用CD-ROMプレーヤーとDTSプロセッサーを組み合わせた機器が必要なだけなので、他の方式に比べて設備投資が少なくて済むことから、導入する映画館も増え、民生用映画ソフト(DVD、LDなど)、および音楽ソフト(6チャンネルCD)への転用も積極的に行われています。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)について

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、2000年の年末に始まる BSデジタル放送で採用されることになっている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

THXについて



THXはルーカスフィルム社が定めた規定で、映画鑑賞を最高の品質で実現するためのものです。映画の音声トラックは映画館に設置されているものと同じ装置を使用した大きなスタジオで録音されます。このようなトラックを映画館で再生すると臨場感のあるすばらしい音場を再現することができます。しかし、映画館と比較すると家庭の部屋は非常に小さく、残響が多く、使用しているスピーカーもまったく違うものでそのスピーカーの本数も6本程度、それにリスニングポジションも映画館で鑑賞する場合と比べるとずっとスピーカーに近い、というのが実情です。
こういった違いがあるために、よい映画を見たときに私たちを興奮させてくれる力強さや感動を家庭で再現することは不可能であるとされてきました。しかし、パイオニアの技術とTHXの技術が重なることにより、この難問を解決し、ついに現実のものとなりました。

Re-Equalization™：
映画館の空間は非常に大きく音響特性はデットです。またスピーカーからの距離も長くしかも特殊なスピーカーです。このようなデットな空間でマスタリングされたサウンドトラックをリビングルームで聴くと、ライブになり過ぎてしまいます。THX Re-Equalization機能はこの違いを正確に調整してくれます。

Adaptive Decorrelation™：
通常ホームシアターでは、サラウンドチャンネルの音声は２つのスピーカーで再生されますが、実際の映画館では、サラウンドチャンネルの再生にはたくさんのスピーカーを使用しています。このため、サラウンドチャンネルの音声トラックがモノラルサウンドの場合、映画館では全方向から音声が聞こえてくるのに対して家庭では一方向からしか聞こえてこないことがあります。Adaptive Decorrelationはこの不具合を修正し、２つのスピーカーでも同様の効果を得られるようにしたものです。

Timbre Matching™：
映画の音声トラックを録音する際、サラウンドチャンネルの音声が映画館の中をスムーズに途切れることなく移動して聞こえるように録音することは非常に重要なことです。スピーカーからスピーカーへ音声がジャンプしてしまうと非常にがっかりするものです。Timbre Matchingはサラウンドスピーカーを２本しか使用していなくてもサラウンド音声がスムーズに移動して聞こえるようにします。

Bass Peak Level Manager™：
Dolby Digitalのソフトにはホームシアターの環境のもとでは非常に大きなレベルの低音が記録されている場合があります。Bass Peak Level Managerを使用するとご家庭のシステムに適したピークレベルを設定することができます。(この機能については35ページを参照してください。)

Loudspeaker Position Time Synchronization™：
それぞれのスピーカーからリスニングポジションまでの距離の差を調整する機能です。この調整を行うとすべてのスピーカーが正確に同期するため、切れ目のない自然な音場を再現することができます。（この機能については30ページを参照してください。）

メーカーコードリスト

機器	メーカー名	メーカーコード
DVD	Denon	0490
	Victor	0558,0623
	Kenwood	0534
	Marantz	0539
	Mitsubishi	0521
	Onkyo	0503,0627
	Panasonic	0490,0632
	Philips	0503,0539
	Samsung	0573
	Sharp	0630
	Sony	0533
	Toshiba	0503
	Yamaha	0490,0545
	Pioneer	0525,0571,0632 0631(DVD-RW)
LD	Akai	0598
	Denon	0059
	Funai	0584
	Hitachi	0023
	Mitsubishi	0059
	Panasonic	0496
	Philips	0475
	Sharp	0597
	Sony	0193,0201,0583 0589
	Toshiba	0599
	Pioneer	0023,0059,0463 0572
TV	Daewoo	0451
	Funai	1174,0264
	GoldStar	0001,0002,0037 0039,1181
	Hitachi	1148
	Mitsubishi	1153
	NEC	0030,0170
	Panasonic	0161,1253
	Philips	0037
	Pioneer	0166,0679
	Samsung	1063,0090
	Sanyo	0208
	Sharp	1096
	Sony	1899
	Toshiba	1159
	Victor	0036,1056,0160 1253,0069
CATV	Pioneer	1023,1144,1260 1533
CD/CD-R/MD	Aiwa	0124,0157
	Denon	0003,0358,0873
	GoldStar	0383,0525
	Harman/Kardon	0157,0173
	Hitachi	0032
	Kenwood	0028,0037,0190 0626,0681,0826
	Luxman	0266
	Marantz	0029,0157,0180
	Onkyo	0101,0381,0868
	Panasonic	0029,0303
	Philips	0157,0626
	Sansui	0157,0305
	Sanyo	0179,0349
	Sharp	0037,0180,0861
	Sony	0000,0185,0490
	Teac	0174,0180,0393 0420
	Technics	0029,0303
	Toshiba	0481
	Victor	0072
	Yamaha	0036,0187
	Pioneer	0032,0244,0305 0468,0551 1062 (CD-R) 1063 (MD) 1087
TAPE	Aiwa	1029,1197,1223
	Akai	1189
	Denon	1076
	Harman/Kardon	1029,1182
	Kenwood	1070
	Luxman	1266
	Marantz	1029
	Nakamichi	1218
	Onkyo	1135,1282
	Panasonic	1229
	Philips	1029
	Sansui	1029
	Sanyo	1261
	Sony	1170,1243,1291
	Teac	1391
	Technics	1229
	Victor	1244,1273
	Yamaha	1094,1097
	Pioneer	1027,1099,1101 1220
VCR	Aiwa	0000,0037,0307
	Akai	0041,0106,0281 0315
	Daewoo	0020,0045,0046 0278,0561
	Denon	0042
	Funai	0000
	GoldStar	0037,0038,0225 0480
	Hitachi	0000,0041,0042 0166,0235
	Kenwood	0038,0041,0067
	Marantz	0035,0081
	Mitsubishi	0043,0048,0067 0173
	NEC	0038,0040,0041 0067,0104
	Orion	0002,0184,0209 0479
	Panasonic	0035,0162,0225 0226,0227,1062 1162,1262
	Philips	0035,0081
	Samsung	0045,0240,0426 0432
	Sansui	0000,0041,0067 0209,0271,0479
	Sanyo	0046,0047,0104 0240
	Sharp	0048,0363
	Sony	0000,0032,0034 0035
	Toshiba	0043,0045
	Victor	0008,0041,0067
	Yamaha	0038
	Pioneer	0058,0067,0168
DAT	Denon	0031
	Harman/Kardon	0158
	Marantz	0158
	Philips	0158
	Sony	0093
	Pioneer	0019
TUNER	Aiwa	0121,0301,1089 1405
	Akai	0115
	Denon	1104,1160
	Victor	0074
	Kenwood	0186,1027,1313 1569
	Marantz	0039,1089,1189
	Onkyo	0135,0380
	Philips	0391,0891,1089 1189
	Pioneer	0014,0080,0150 0289,0531,0630 1023
	Samsung	0112
	Sansui	1089
	Sony	1058,1158,1258
	Teac	0112,0463
	Technics	0039,1308,1309 1518
	Yamaha	0176,0186

故障？ちょっと調べてください

故障かな ？ と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください（7 3 ページをご覧ください）。

症 状	原 因	対 応
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	コンセントに差し込む。
	主電源ボタンがOFF（■）になっている。	主電源ボタンをON（▂）にする。
	保護回路が動作している。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。どうしても電源が入らない場合は、お近くのパイオニアステーションにご相談ください（73ページをご覧ください）。
操作ボタンを押しても動作しない。	空気が乾燥しているとき、静電気などの影響を受けている。	ボタンを繰り返し押す。
		電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。
入力切換を合わせても、音が出ない。	接続が正しくない。	14～24ページを参照して、接続を直す。
	ミューティング状態になっている。	リモコンのMUTEボタンを押す。
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。
	TAPE2 MONITORモードがONになっている。	TAPE2 MONITORボタンを押して、TAPE2 MONITORモードをOFFにする。
	スピーカーモードがOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、接続してあるスピーカーをONにする。
	SIGNAL SELECTボタンの入力信号の選択が正しくない。	SIGNAL SELECTボタンで正しい入力信号を選択する（45ページをご覧ください）。
入力切換を合わせても、映像が出ない。	接続が正しくない。	14～24ページを参照して、接続を直す。
	入力切換が正しくない。	正しい入力切り換えを設定する（45ページをご覧ください）。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	スピーカーの設定が正しくない。	スピーカーを正しく設定する（「スピーカーの設定」（28ページ）をご覧ください）。
	サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。	スピーカーのレベルを上げる（「スピーカー出力レベルの設定」（32ページ）をご覧ください）。
	サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている。	スピーカーを接続する（「スピーカーの接続」（22～23ページ）をご覧ください）。
サブウーファーの音が出ない（または小さい）。	スピーカーの設定によってはサブウーファーから音が出ないことがある。	サブウーファーの設定をPLUSまたはYESにするか、フロントスピーカーの設定をSMALLにする（28～29ページ）。
	サブウーファーのレベルが下がっている。	サブウーファーのレベルを上げる（「スピーカー出力レベルの設定」（32ページ）をご覧ください）。
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーを接続する（22～23ページをご覧ください）。
デジタル機器の音が出ない。	SIGNAL SELECTボタンの入力信号の選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALまたはANALOGを選択する（45ページをご覧ください）。
	デジタル入力端子への入力信号の指定が正しくない。または、指定されていない。	接続されている機器に応じて、デジタル入力端子に正しい入力信号を指定する（15～17、45ページをご覧ください）。

症　状	原　因	対　応
DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	SIGNAL SELECTボタンでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する（15～17、45ページをご覧ください）。
	使用しているDVDプレーヤーがDTS対応ではない。またはDVDプレーヤーの設定が正しくない。	DVDプレーヤーの取扱説明書を読む。
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。（DTS信号が正しく読み取れない。）	機器のデジタル出力レベルを上げる。
	スピーカーモードがOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、スピーカーモードをONにする。
DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑える。
DD/DTSなどのLDを再生中にノイズがでる。	SIGNAL SELECTでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。（15～17、45ページをご覧ください）。
DD/DTSなどのソフトを再生しているのに、DTSインジケーターが点灯しない。	再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。	再生しているプレーヤーの再生を開始する。
	再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。	再生しているプレーヤーの音声出力設定を正しく行う。
	再生しているソフトがDTS以外のトラックを再生中である。	再生しているソフトのDTSのトラックを再生する。
DD/DTSなどのソフトを再生しているのにすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない。	DTS対応ソフトに記録されているフォーマットが5.1chではない。	5.1chフォーマットで記録されているDTS対応ソフトを再生する。
リモコン操作ができない。	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する（12ページをご覧ください）。
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30°以内で操作する（12ページをご覧ください）。
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。
SIGNAL SELECTボタンを押しても入力がDIGITALにならない。	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	「接続」と「デジタル入力の設定」を正しく設定する（15～17ページをご覧ください）。
	TAPE2 MONITORモードがONになっている。	TAPE2 MONITORボタンを押してMONITORモードをOFFにする。
OVERインジケーターが点灯することが多い。	アナログの入力信号レベルが高すぎる。	INPUT ATTボタンを押す。(75、78ページ)

静電気など外部からの影響により本機が正常に動作しない場合は

- 電源コードを一度コンセントから抜いてから再度差し込むことで、本機が正常に動作することがあります。

仕様

オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、8Ω）
フロント .... 130 W × 2
センター .... 130 W
サラウンド .... 130 W × 2
定格出力（ステレオ動作時）
20 Hz～20 kHz、0.09%、8Ω
.... 100 W＋100W
定格出力（サラウンド動作時）
20 Hz～20 kHz、0.09%、8Ω
フロント .... 100 W＋100W
センター 100W
サラウンド .... 100 W＋100W
入力端子（感度/インピーダンス）
DVD/LD、TV/SAT/DVD、CD、CD-R/TAPE1/MD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO、TUNER
.... 335 mV/47 kΩ
周波数特性
DVD/LD、TV/SAT/DVD、CD、CD-R/TAPE1/MD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO、TUNER
.... 5 Hz～100 kHz、$^{+0}_{-3}$ dB
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR 1/DVR OUT、VCR2 OUT、CD-R/TAPE1/MD REC、TAPE2 REC .... 335 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ± 6dB（100 Hz）
TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
LOUDNESS .... +10dB（100 Hz/10 kHz）
SN比（IHF、ショートサーキット、Aネットワーク）
DVD/LD、TV/SAT/DVD、CD、CD-R/TAPE1/MD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO、TUNER
.... 103 dB
SN比[EIA、1W（1kHz）]
DVD/LD、TV/SAT/DVD、CD、CD-R/TAPE1/MD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO、TUNER
.... 83 dB

ビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
DVD/LD、TV/SAT/DVD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR1/DVR、VCR2、MONITOR OUT、
.... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
DVD/LD、TV/SAT/DVD、VCR1/DVR、VCR2、VIDEO .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 65 dB

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60Hz
消費電力（電気用品取締法） .... 300 W
待機時消費電力 .... 1 W
予備電源コンセント
連動 .... 2（合計100 W 最大）
外形寸法
...... 420（幅）× 463（奥行） × 173（高さ）mm
質量 .... 16.0 kg

付属品

リモコン 1
電源コード 1
単3形アルカリ乾電池（LR6） 2
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8　年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

７０～７１ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

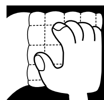
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSA-D6TX
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■　保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■　保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。



お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5 ～6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

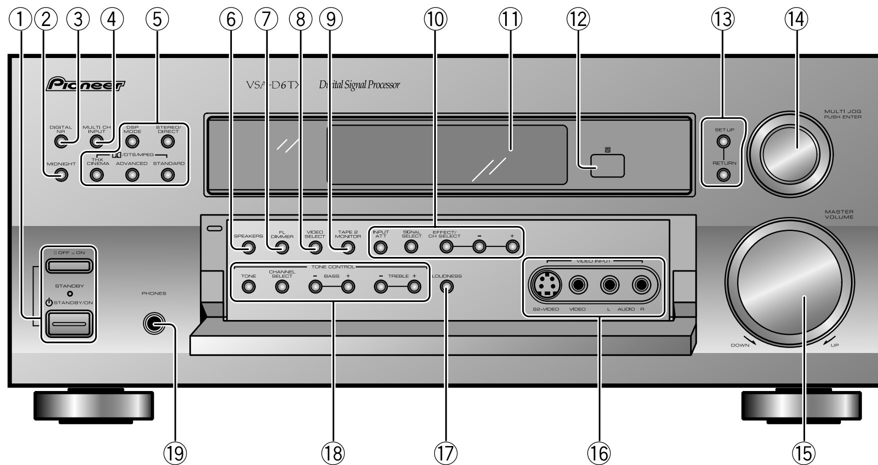


音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部の名称と働き

フロントパネル



① **主電源ボタン(▀OFF/▄ON)**

本機を使用するときは最初にこのボタンをON(▄)にしてください。
このボタンがオフ位置(▀) にあると、フロントパネルおよびリモコンでの操作はできません。

⏻STANDBY/ONボタン

本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。

STANDBYインジケーター

本機がスタンバイモードにあるとき点灯します。
(スタンバイ時の消費電力は1Wです。)

② **MIDNIGHTボタン**

ミッドナイトリスニングモードをＯＮにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合など、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます**(47ページ)**。

③ **DIGITAL NRボタン**

DIGITAL NR(デジタルノイズリダクション)をＯＮにすると、カセットテープやレコードなど、雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減することができます**(46ページ)**。

④ **MULTI CH INPUT(外部デコーダー入力)ボタン**

裏面のMULTI CH IN端子に機器を接続して使用するとき押します**(49ページ)**。

⑤ **DSP MODEボタン**

DSPモードを選択するときに押します**(40、42ページ)**。

STEREO/DIRECTボタン

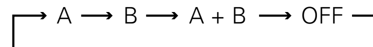
ステレオモードまたはダイレクトモードを選択するときに押します。ステレオモードでは、音声は左右のフロントスピーカーからのみ再生されます**(42,43ページ)**。ダイレクトモードではトーンコントロールやチャンネルレベルなどを通さずにステレオ再生します**(42、50ページ)**。

DD/DTS/MPEGボタン

このモードでは、自動的に入力信号に合わせてドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTSまたはMPEG-2 AACの再生ができます。
THX CINEMA:ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS対応ソフトなどをTHX CINEMAモードで再生するときに押します**(41、44、68ページ)**。
ADVANCED THEATER:ADVANCED THEATERモードのいずれかを選択するときに押します**(41、44ページ)**。
STANDARD:STANDARDモードを選択するとき押します。映画のサウンドトラックなどを忠実に再現したいときに最適なモードです**(41、44ページ)**。

⑥ **SPEAKERSボタン**

スピーカーシステムを切り換えるとき押します。
ボタンを押すたび、以下にように切り換わります。



• Ｂのときは、Ｂシステムに接続されているフロントスピーカーからのみ音声が再生されます。

• A+Ｂのときはフロントスピーカーとサブウーファーからのみ音声が再生されます。

⑦ FL DIMMERボタン
ディスプレイの明るさを調整するとき押します(51ページ)。

⑧ VIDEO SELECTボタン
音楽ソースを聞きながら、別の入力のビデオ映像を観たいときに押します(52ページ)。

⑨ TAPE 2 MONITORボタン
TAPE2 MONITOR入出力端子に接続されているテープデッキ、ＭＤレコーダーなどの音声を選択するとき押します。録音中に、実際の音を確かめたいとき便利な機能です(63ページ)。

⑩ INPUT ATTボタン
アナログ信号入力時に、過大信号入力により音声が歪んだとき(オーバーロードインジケーターが頻繁に点灯したとき)にONすると、入力信号のレベルが下がり、音が聴きやすくなります。

SIGNAL SELECTボタン
デジタル機器からの入力信号を次のように切り換えるとき押します(45ページ)。
DIGITAL(デジタル): デジタル信号を選択します。
ANALOG(アナログ): アナログ信号を選択します。
AUTO(自動): 入力信号が複数ある場合に、本機が最適な入力信号を自動的に選択します。

EFFECT/CH SELECT、+/ーボタン
ＤＳＰモードのエフェクトレベルを調整したり、レベル調整するスピーカーを選択、調整するとき押します(32～33、50ページ)。

⑪ ディスプレイ
(76、77ページ)

⑫ リモコン受光部
本機をリモコンで操作する場合は、ここにリモコンを向けます。

⑬ SETUP/RETURNボタン
SETUP: 本機をセットアップモードにするときに押します。
RETURN: セットアップモードで操作中に、一つ前の操作に戻りたいときに押します。

⑭ MULTI JOG
入力ソースを選択するときに回します。SETUP操作のときには回して選択、押して決定することができます。また、ディスプレイが通常表示のときにMULTI JOGを押すと、ファンクション表示かサラウンド表示かを切り換えることができます。
DVD/LD: DVDプレーヤーまたはLDプレーヤー
TV/SAT: テレビチューナーまたは衛星チューナー
CD: CDプレーヤー
CD-R/TAPE 1/MD: 裏面のCD-R/TAPE 1/ＭＤ入力に接続されたCD-R、デープデッキまたはＭＤレコーダー
TUNER: FM/AMチューナー
VIDEO: フロントパネルの⑯ VIDEO INPUTに接続したビデオカメラなど
VCR 1/DVR: 裏面のVCR 1/DVR入力に接続されたビデオデッキやDVDレコーダー
VCR 2: 裏面のVCR 2入力に接続されたビデオデッキ

⑮ MASTER VOLUME
本機の音量を調節するとき回します。

⑯ VIDEO INPUT端子
S2-VIDEO: ビデオカメラなどのSビデオ出力に接続します(19ページ)。
VIDEO/AUDIO(L/R): ビデオカメラなどの通常の映像、音声出力に接続します(19ページ)。

⑰ LOUDNESSボタン
ラウドネスをＯＮにすると、低音域、高音域のレベルが上がり小音量でも聴きやすくなります(47ページ)。

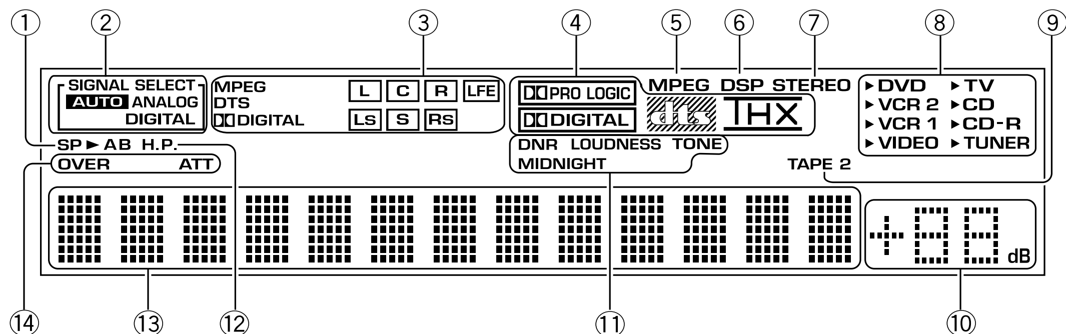
⑱ TONE CONTROLボタン
TONE:トーンコントロールを設定するときに押します。押すたびにONまたはBYPASSに切り換わります(48ページ)。

CHANNEL SELECTボタン:トーンコントロールを設定するスピーカー(フロント、センター、サラウンド、サブウーファー)を選択するときに押します(48ページ)。

BASS(＋/－)/TREBLE (＋/－)ボタン:BASSは低音を調整するとき押します。TREBLEは高音を調整するとき押します(48ページ)。

⑲ PHONES(ヘッドホン)端子
ヘッドホンを差し込む端子です。ヘッドホンを使用すると、スピーカーから音声は再生されません。

ディスプレイ



① **スピーカーインジケーター**

現在選択されているスピーカーシステム(フロントパネルの⑥ＳＰＥＡＫＥＲＳボタン参照)の表示が点灯します。

SP►A:スピーカーAが選択されているとき点灯します。

SP►B:スピーカーBが選択されているとき点灯します。

SP►AB:スピーカーAB両方が選択されているとき点灯します。

② **SIGNAL SELECTインジケーター**

現在選択されている機器の入力信号(フロントパネルの⑩ SIGNAL SELECTボタン参照)が点灯します。

DIGITAL:デジタル音声信号が選択されているとき点灯します。

ANALOG:アナログ信号が選択されているとき点灯します。

AUTO:本機が自動的に入力信号を選択するように設定されているときに点灯します。

③ **プログラムフォーマットインジケーター**

DTS:DTS信号が入力されると点灯します。

DIGITAL:ドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

MPEG: MPEG-2 AAC信号が入力されると点灯します。

また、ＤＴＳ信号やドルビーデジタル信号入力時には、ディスクに記録されている内容に対応して下記のインジケーターが点灯します。

L:フロント左チャンネル

C:センターチャンネル

R:フロント右チャンネル

LS:サラウンド左チャンネル

S:サラウンドチャンネル(モノラル)

RS:サラウンド右チャンネル

LFE:再生ソフト中にLFE(Low Frequency Effect=超低域の効果音)が含まれていると「LFE」が点灯します。

④ **／DTS／MPEGモードインジケーター**

dts: /DTS/MPEGモードのいずれかが選択されているときに、ＤＴＳ信号を入力すると点灯します。

DIGITAL: /DTS/MPEGモードのいずれかが選択されているときに、ドルビーデジタル信号を入力すると点灯します。ただし、2 チャンネル収録のドルビーデジタル信号を入力するとPRO LOGICが点灯します。

PRO LOGIC: /DTS/MPEGモードのいずれかが選択されているときに、2チャンネルのソースをドルビープロロジックで再生しているときに点灯します。(スピーカーB、スピーカーAB、ヘッドホンで再生しているときは点灯しません。)

THX: THX CINEMAモードを選択すると点灯します。

⑤ **MPEGインジケーター**

/DTS/MPEGモードのいずれかが選択されているときに、MPEG-2 AACの信号を入力すると点灯します。

⑥ **DSPインジケーター**

ＤＳＰモードを選んだときに点灯します**(40、42ページ)**。

⑦ **STEREOインジケーター**

本機がSTEREO(2チャンネル)モードで動作している時に点灯します**(42、43ページ)**。

⑧ **ファンクション表示部**

(前ページの⑭ＭＵＬＴＩ ＪＯＧを参照してください)。

⑨ TAPE2インジケーター

フロントパネルの⑨ TAPE2 MONITORボタンを押して、TAPE2 MONITOR入出力端子に接続されている機器（テープデッキ、ＭＤレコーダーなど）を選択すると点灯します**(63ページ)**。

⑩ VOLUME（音量レベル）表示部

現在の主音量レベルを表示します**(11ページ)**。

⑪ 便利な音声再生用機能インジケーター

DNR: DIGITAL NRがONのときに点灯します**(46ページ)**。

LOUDNESS: LOUDNESSがONのときに点灯します**(47ページ)**。

TONE: トーンコントロールがＯＮのときに点灯します**(48ページ)**。

MIDNIGHT: MIDNIGHTがONのときに点灯します**(47ページ)**。

⑫ H.P（ヘッドホン）インジケーター

ヘッドホンをＰＨＯＮＥＳ端子に差し込むと点灯します（スピーカーＡ、Ｂは自動的にＯＦＦになります）。

⑬ キャラクター表示部

ＤＳＰモードなどの情報を表示します。

⑭ アナログ信号レベルインジケーター

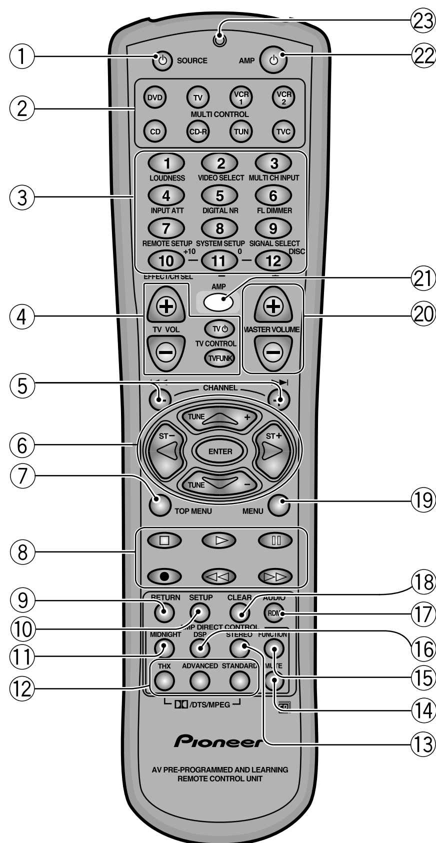
ＯＶＥＲ: アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎると点灯します。このインジケーターが点灯したら、リモコンの③ INPUT ATTボタンを押して入力信号のレベルをアッテネート（減衰）させてください。

ATT: リモコンの③ INPUT ATTボタンを押して入力信号のレベルをアッテネート（減衰）させると点灯します（アナログ信号を選択している場合のみ）。

各部の名称と働き

8

リモコン



① ⏻SOURCEボタン

他機器の電源をＯＮ/ＯＦＦするときに押します。ただし、本機のリモコンにその機器のメーカーコードを設定しておくか学習させておかないと正しく動作しません(**53〜55ページ**)。

② MULTI CONTROLボタン

本機の入力を切り換えるときや、他機器の操作をするときに押します。

③ 数字ボタン

リモコンの操作モードにしたがってさまざまな目的に使用します。

また、㉑AMPボタンを押すと以下の操作ができます。

LOUDNESSボタン

ラウドネスをＯＮにすると、低音域、高音域のレベルが上がり小音量でも聴きやすくなります(**47ページ**)。

VIDEO SELECTボタン

音楽ソースを聞きながら、別の入力のビデオ映像を観たいときに押します(**52ページ**)。

MULTI CH INPUT(外部デコーダー入力)ボタン

裏面のMULTI CH IN端子に機器を接続して使用するとき押します(**49ページ**)。

INPUT ATTボタン

アナログ信号入力時に、過大信号入力により音声が歪んだとき(オーバーロードインジケーターが頻繁に点灯したとき)にＯＮすると、入力信号のレベルが下がり、音が聴きやすくなります。

DIGITAL NRボタン

DIGITAL NR(デジタルノイズリダクション)をＯＮにすると、カセットテープやレコードなど、雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減することができます(**46ページ**)。

FL DIMMERボタン

ディスプレイの明るさを調整するとき押します(**51ページ**)。

REMOTE SETUPボタン

リモコンの各種設定に使用します(**53〜58ページ**)。

SYSTEM SET UPボタン

スピーカーやサウンドシステム、入力などの設定に使用します(**25〜39ページ**)。

SIGNAL SELECTボタン

デジタル機器からの入力信号を次のように切り換えるとき押します(**45ページ**)。

DIGITAL(デジタル): デジタル信号を選択します。

ANALOG(アナログ): アナログ信号を選択します。

AUTO(自動): 入力信号が複数ある場合に、本機が最適な入力信号を自動的に選択します。

EFFECT/CH SELECT、+/−ボタン

ＤＳＰモードのエフェクトレベルを調整したり、レベル調整するスピーカーを選択、調整するとき押します(**32〜33、50ページ**)。

④ TV CONTROLボタン

TV⏻ボタン： テレビの電源を入れたり、スタンバイ状態にするとき押します。

TV VOL(+/−)ボタン： テレビの音量を調節するとき押します。

TV FUNCボタン： テレビの入力を切り換えるとき押します。

⑤ **⏮ ⏭/CHANNEL+/−ボタン**
入力がTVやVCRのときはチャンネルを変えるボタンとして使用し、入力がDVDやCDのときはトラックを変えるボタンとして使用します。

⑥ **▲/▼/◄/►/ENTERボタン**
サラウンドシステムのレベルなどの各種設定に使用します**(25〜39ページ)**。

⑦ **TOP MENUボタン**
ＤＶＤのタイトルメニュー画面を表示させるときに押します。

⑧ **他機器操作ボタン**
② MULTI CONTROL ボタンで選択した他の機器を操作するときに押します。

⑨ **RETURNボタン**
ＤＶＤの各種メニューを操作していて、操作を戻すときに押します。

⑩ **SETUPボタン**
DVDの設定画面にするときに押します。

⑪ **MIDNIGHTボタン**
ミッドナイトリスニングモードをＯＮにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合など、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます**(47ページ)**。

⑫ **DD/DTS/MPEGボタン**
このモードでは、自動的に入力信号に合わせてドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTSまたはMPEG-2 AACの再生ができます。
THX:ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS対応ソフトなどをTHXCINEMAモードで再生するときに押します**(41、44、68ページ)**。
ADVANCED :4つのADVANCED THEATERモードのうちのいずれかを選択するときに押します**(41、44ページ)**。
STANDARD :STANDARDモードを選択するとき押します。映画のサウンドトラックなどを忠実に再現したいときに最適なモードです**(41、44ページ)**。

⑬ **STEREOボタン**
ステレオモードまたはダイレクトモードを選択するときに押します。ステレオモードでは、音声は左右のフロントスピーカーからのみ再生されます**(42,43ページ)**。ダイレクトモードではトーンコントロールやチャンネルレベルなどを通さずにステレオ再生します**(42、50ページ)**。

⑭ **MUTEボタン**
音を一時的に消す（ミュートする）ときに押します。もう一度押すと、ミュートは解除されます。

⑮ **FUNCTIONボタン**
入力ソースを選択するとき押します。入力ソースすべてを順次選択していきます。

⑯ **DSPボタン**
DSPモードを選択するときに押します**(40、42ページ)**。

⑰ **AUDIO(RDM)ボタン**
CD/CD-R/MDの場合はランダムモードにします。ＤＶＤ/ＬＤの場合は再生する音声を選択します。

⑱ **CLEARボタン**
ＤＶＤの各種メニュー画面をクリアーするときに押します。

⑲ **MENUボタン**
ＤＶＤなどの各種メニュー画面を表示させるときに押します。

⑳ **MASTER VOLUME(+/−)ボタン**
本機の音量を調節するとき押します。

㉑ **AMPボタン**
リモコンをアンプ操作モードにするときに押します。

㉒ **⏻AMPボタン**
本機の電源をＯＮまたはＯＦＦ（スタンバイ状態）にするとき押します。

㉓ **LEDランプ**
リモコンから信号が送られているときや、設定が正しく行われたときなどに点灯、点滅します。

本機の接続、操作、技術相談に関するお問い合わせは(全国共通フリーコール)

テクニカルサポートセンター　**0088-22-8102**

受付時間 ：9:30～12:00、13:00～17:00（ただし、土曜日、日曜日、祝日、弊社休日は除く）

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問い合わせ窓口　**0070-800-8181-22**

● カタログのご請求窓口　**0070-800-8181-33**

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。

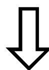
● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のためお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZF/00I00001>　<ARA7106-B>